

2

運 転 す る 前 に

キーレスアクセス&プッシュスタート

キーレスアクセス&プッシュスタートについて	2-2
キーレスアクセス機能を使用する際のドアの施錠・解錠	2-6
電波式リモコンドアロックによるドアの施錠・解錠（ボタン操作による施錠・解錠）	2-11
エンジンの始動・停止	2-13
警告音および警告表示による警報	2-20
キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法	2-28
アクセスキーが正常に作動しないとき	2-29

各部の開閉

キー	2-33
ドア	2-36
電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠	2-40
盗難警報装置	2-43
チャイルドブルーフ	2-49
パワーウィンドウ	2-50
フューエルリッド（燃料補給口）	2-54
ボンネット	2-57
トランク（4ドア）	2-59
リヤゲート（5ドア）	2-60

シート

正しい運転（乗車）姿勢	2-63
フロントシート	2-65
リヤシート	2-70

シートベルト

シートベルトの正しい着用	2-74
フロントシートベルト	2-77
リヤシートベルト	2-81

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付シートベルト	2-85
ISO FIX固定バー および テザーアンカー	2-86

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム	2-94
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき	2-101
SRSエアバッグ警告灯	2-110
車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください	2-111

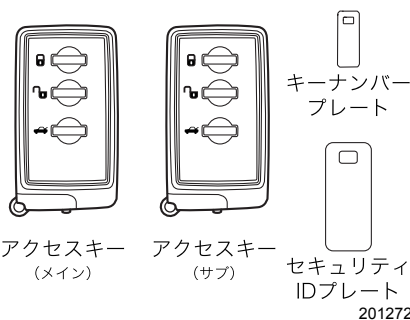
ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング	2-112
チルト/テレスコピックステアリング	2-112
ルームミラー	2-113
ドアミラー	2-114

キーレスアクセス&プッシュスタート

キーレスアクセス&プッシュスタートについて

キーレスアクセス & プッシュスタートはアクセスキーを携帯することにより、全てのドアとリヤゲートの施錠および解錠、トランクの解錠、エンジンの始動および停止が行えるシステムです。また、施錠・解錠については従来どおりの電波式リモコンドアロックもアクセスキーのボタン操作で行うことができます。



警告

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の機器を装着されている方は、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけないようにしてください。

車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を装着されている方は、後述の“キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について”を参考に医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。車両側発信アンテナの電波により医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- キーレスアクセス&プッシュスタート機能の作動あり/作動なしを設定することができます。設定方法は「キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法」を参照してください。また、スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

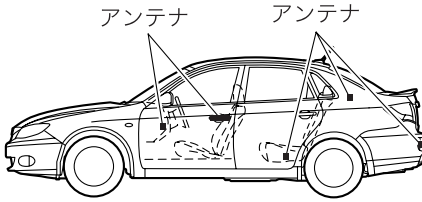
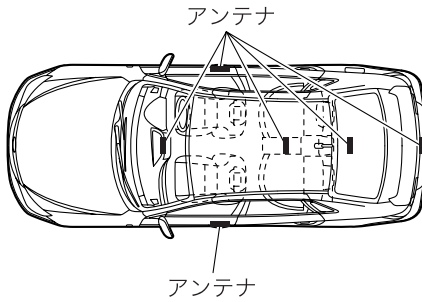
☆2-28ページ参照

キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について

- キーレスアクセス&プッシュスタートでは、以下規則により定められた微弱電波を使用しております。
 - － 電波法施行規則第6条第1項第1号
- キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、従来の電波式リモコンドアロック機能の電波に加え、下記周波数の電波（※1）を使用しています。その電波は次のイラストの車両側アンテナから周期的に出力しています。

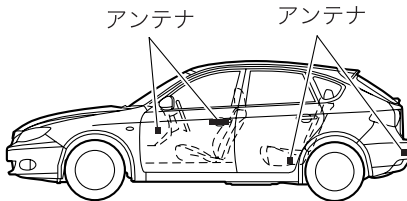
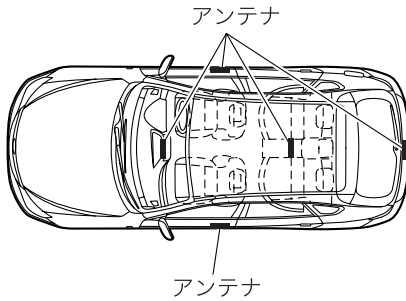
※1 電波周波数：134 kHz

<4ドア>



201711

<5ドア>



201688

運転する前に

 **注意**

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のようなアクセスキーの状態、周囲の状況によっては、アクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備があるとき
- 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機があるとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- アクセスキーを次のような製品と同時に携帯しているとき
 - － 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキー
 - － 複数のアクセスキー
 - － パソコンや携帯情報端末（PDAなど）
 - － デジタルオーディオプレーヤー
 - － ポータブルゲーム機器
- アクセスキーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - － アクセサリー
 - － アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - － アルミ箔を使用したタバコの箱
 - － 金属製の財布やカバン
 - － 小銭
 - － カイロ
 - － CDやDVDなどのメディア

アクセスキーを車室内（例えば、インストルメントパネルの上、物入れ、シートの上など）、荷室内または車両周辺 2 m 以内（例えば、車庫での保管など）に絶対に放置・保管しないでください。

アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によっては電源が切り替わらないことがあります。

- 長期間お車を使用しないとき、機能自体を使用しないとき、やむをえずアクセスキーを車室内や車の周辺に保管したいときは、キーレスアクセス機能を停止させることができます。設定方法は「キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法」を参照してください。また、スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2-28ページ参照

- アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - － アクセスキーの電池は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるためスバル販売店での交換をお奨めします。
 - － 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
 - － 強い衝撃を与えないでください。
 - － 磁気を帯びた物に近づけないでください。
 - － ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - － 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
 - － 湿気やホコリが多い場所に放置しないでください。アクセスキー故障の原因となります。
 - － パソコン、家電製品の近くに放置しないでください。アクセスキーが誤作動し、電池切れの原因となります。
 - アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりませんが、約1年～2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
- ☆6-54ページ参照
- アクセスキーを落下させた場合、内蔵されているメカニカルキーが外れることがあります。メカニカルキーの紛失にご注意ください。
- ☆2-29ページ参照
- 航空機内はアクセスキーなどの無線機器の使用が禁止されています。航空機内ではアクセスキーのボタンを押さないでください。

アドバイス

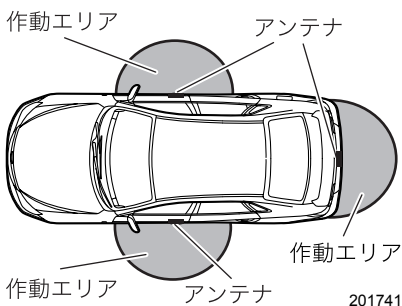
- アクセスキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、アクセスキーの再登録をお奨めします。アクセスキーの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- スペアのアクセスキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- アクセスキーは最大7つまで登録できます。
- アクセスキーに付属のキーナンバープレート、セキュリティIDプレートは大切に保管してください。車両修理やアクセスキーの追加登録などで必要になります。
- アクセスキーはドアポケットやダッシュボードなどの車内の収納場所に放置しないでください。(振動による破損や勝手にスイッチが入って閉じ込める危険性があります)

キーレスアクセス機能を使用してのドアの施錠・解錠

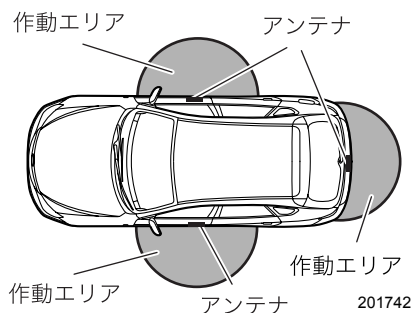
■キーレスアクセス機能の作動エリア

- ドアおよびリヤゲートの施錠・解錠機能の作動範囲は、ドアハンドルとリヤゲートオープナースイッチを中心に約40～80 cmが目安となります。
- トランクの解錠機能の作動範囲は、トランクオープナーリクエストスイッチを中心に約40～80 cmが目安となります。

<4ドア>

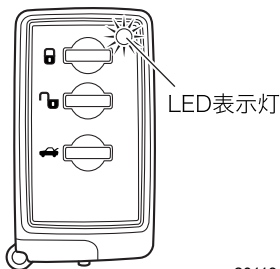


<5ドア>



ドアが施錠している状態で前席ドアの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。キーレスアクセス機能を停止させた場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。

☆2-28ページ参照




アドバイス

- 電源をOFFにしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのリクエストスイッチのみになります。
- 誤作動防止のため、施錠および解錠後、一定時間（約1秒未満）はリクエストスイッチによる解錠および施錠ができません。
- 操作が早すぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。施錠後は、ドアハンドルを操作して確認することをお奨めします。
- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。作動しないときは少し離れて操作をやり直してください。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと、図示した作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方もキーレスアクセス機能进行操作できます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのリクエストスイッチになります。
- アクセスキーの状態、周囲の電波状況によってキーレスアクセス機能が正常に作動しない可能性があります。このような場合、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

☆2-29ページ参照

- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。但しアクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際はアクセスキーを持っていることを確認してください。
- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法を行ってください。

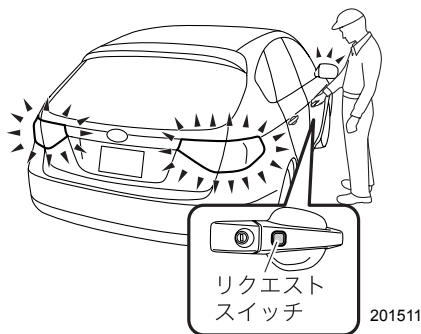
☆2-29ページ参照

- ドア(リヤゲート含む)が開いているときは施錠できません。全てのドアおよびリヤゲートを閉めてから、施錠操作を行ってください。

■キーレスアクセス機能の使い方

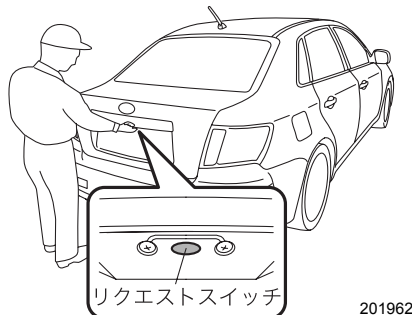
●解錠

アクセスキーを携帯し、ドアハンドルのリクエストスイッチを押してください。全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



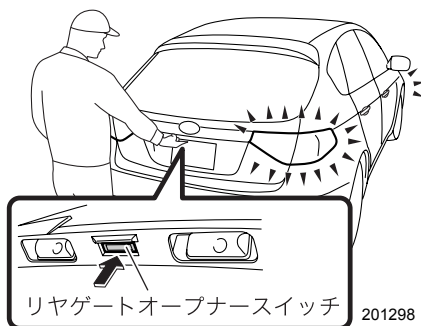
▼トランクの解錠（4ドア）

アクセスキーを携帯し、トランクオープナーリクエストスイッチを押してください。トランクが解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



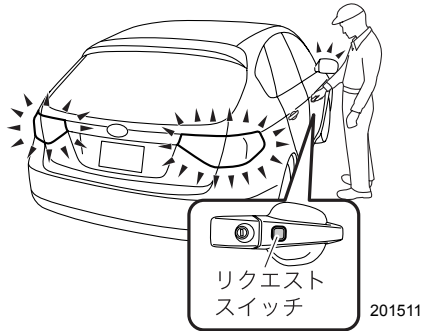
▼リヤゲートからの解錠（5ドア）

アクセスキーを携帯し、リヤゲート中央のリヤゲートオープナースイッチを押してください。リヤゲートと全てのドアが解錠し、リヤゲートが開きます。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



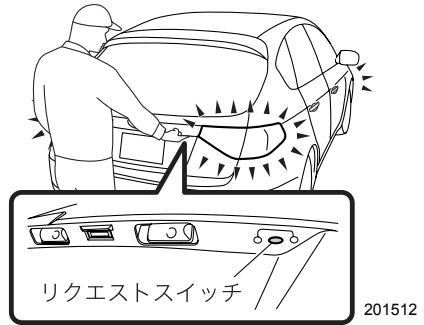
●施錠

アクセスキーを携帯し全てのドアを閉めてからドアハンドルのリクエストスイッチを押してください。全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



▼リヤゲートからの施錠（5ドア）

アクセスキーを携帯し全てのドアを閉めてから、リヤゲートオープナー右端のリクエストスイッチを押してください。リヤゲートと全てのドアが施錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



運転する前に

 **アドバイス**

- リヤゲートのリクエストスイッチによる施錠操作を行ったときは、約3秒間リヤゲートオープナースイッチによる解錠ができません。
- トランクを開けたまま施錠すると非常点滅灯（ハザードランプ）が5回点滅し、トランクが開いていることをお知らせします。


●非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅のカスタマイズ

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

●ルームランプの連動

ドアおよびリヤゲートが施錠された状態でルームランプスイッチがDOOR位置にあるとき、アクセスキーを携帯し運転席または助手席の作動エリアに入るとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。また、キーレスアクセスまたは電波式リモコンドアロックにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中以下の操作をするとルームランプは消灯します。

- リクエストスイッチを押して施錠した場合
- アクセスキーの  ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- プッシュエンジンスイッチを押してAccまたはONにした場合

▼ルームランプ連動のカスタマイズ

ルームランプ連動の作動あり/作動なしの設定と点灯時間の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

●節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の場合キーレスアクセス & プッシュスタートを停止します。

- 全てのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で2週間以上キーレスアクセス&プッシュスタートおよび電波式リモコンドアロックを使用しない場合
- 全てのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

▼復帰方法

以下のいずれかを行うとキーレスアクセス&プッシュスタートは復帰します。

- ドア（リヤゲート含む）のリクエストスイッチを押して解錠する。
- 電波式リモコンドアロックで解錠または施錠する。
- メカニカルキーで解錠し、施錠する。

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

▼自動施錠のカスタマイズ

自動施錠の作動あり / 作動なしの設定と施錠されるまでの時間の設定を変更することができます。

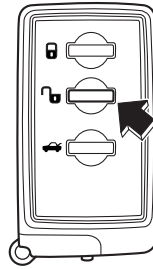
☆1-2ページ参照

電波式リモコンドアロックによるドアの施錠・解錠 (ボタン操作による施錠・解錠)

アクセスキーのボタンを押すと電波により、車から離れたところから全ドア（リヤゲート含む）の解錠・施錠およびトランクの解錠ができます。

●解錠

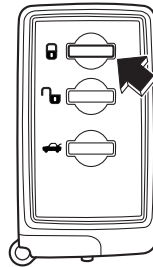
車のまわりからアクセスキーの \square ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



201138

●施錠

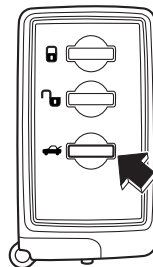
車のまわりからアクセスキーの \square ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



201139

●トランクの解錠（4ドア）


車のまわりから \square ボタンを約1.5秒以上押すとトランクが開きます。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

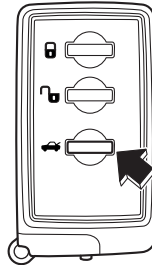


201140

運転する前に

●リヤゲートの解錠（5ドア）

車のまわりから  ボタンを押すとリヤゲートが解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



201140

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。このとき、盗難警報装置も作動します。

▼自動施錠のカスタマイズ


自動施錠の作動あり / 作動なしの設定と施錠されるまでの時間の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

アドバイス

- 電波式リモコンドアロックは車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、施錠を確認してください。
- ドアまたはリヤゲートが開いているときは施錠できません。
- 非常点滅灯の点灯・消灯およびルームランプの点灯時間はスバル販売店で設定ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆2-9ページ参照

- アクセスキーを車体に近づけ過ぎた状態でアクセスキーの  ボタンを押すと、キーレスアクセス機能による解錠ができなくなることがあります。（この場合は電波式リモコンドアロックで解錠すると、機能が復帰します。）

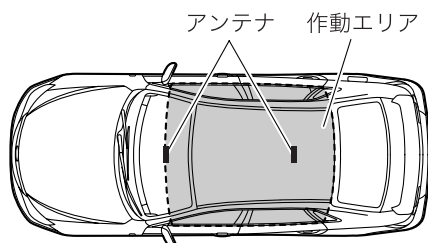
エンジンの始動・停止

アクセスキーを携帯して車内に入ると車両の電源の切り替えおよびエンジン始動をすることができます。

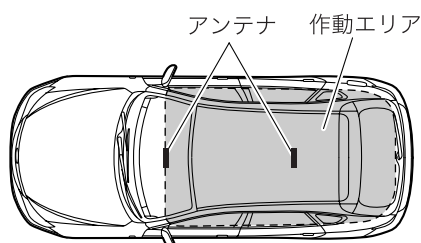
■電源の切り替えおよびエンジン始動の作動エリア

<4ドア>

<5ドア>



201691



201297

🏠 アドバイス

- 車内アンテナの作動エリア内にアクセスキーを検知できない場合、電源切り替えおよびエンジン始動はできません。
- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づきすぎた場合はエンジン始動できる場合があります。
- アクセスキーをトランクに置いた場合、電源切り替えやエンジン始動はできません。但し、アクセスキーの置場や周囲の条件によっては始動できる場合があります。
- アクセスキーを次の場所に置かないでください。電源の切り替えやエンジンを始動できないことがあります。
 - ー インストルメントパネル上
 - ー フロア上
 - ー グローブボックス内
 - ー ドアトリムのポケット
 - ー リヤシート
 - ー リヤシェルフ (4ドア)
 - ー カーゴルームの隅 (5ドア)
- アクセスキーがバッテリー切れの場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法でエンジン始動をしてください。この場合はすみやかに電池交換してください。

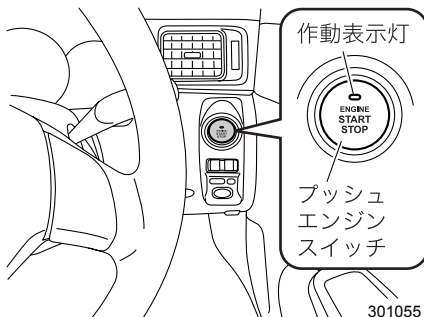
☆2-29、6-54ページ参照

運転する前に

■電源の切り替えかた

プッシュエンジンスイッチを押すごとに、電源が切り替わります。

- ① アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
- ② オートマチック車はセレクトレバーが **P** であること、マニュアル車はニュートラルであることを確認します。
- ③ オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押します。押すごとに電源がOFF→Acc→ON→OFFの順に切り替わります。エンジン停止時、プッシュエンジンスイッチがAccまたはONのときはプッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が燈色に点灯します。



電源の状態	表示灯の色	各作動の動き
OFF	消灯	電源が切れる
Acc	燈色	次の電装品が使用できる ワイパー、ウォッシャー、 オーディオ、電源ソケットなど
ON	燈色(エンジン停止)	全ての電装品が使用できる
	消灯(エンジン回転中)	

●バッテリー上がり防止機能

Accにした状態で約1時間放置するとバッテリー上がり防止のため自動的に電源がOFFになります（オートマチック車はセレクトレバーが **P** のとき）。

⚠ 注意

- 電源がONまたはAccのまま長時間放置すると、車両のバッテリー上がりの原因となります。
- オートマチック車はセレクトレバーが **P** 以外では電源をOFFにすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチに飲料水などをこぼさないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチを油などの付いた手で触れないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチの作動に引っかかりがあるときは、プッシュエンジンスイッチを操作せず、すみやかにスバル販売店に連絡してください。

- 車幅灯を点灯してもプッシュエンジンスイッチ照明が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、プッシュエンジンスイッチの表面が熱くなる場合があります。やけどしないようご注意ください。
- バッテリー上がりおよびバッテリー脱着後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。その際はステアリングロックの初期化※を行ってください。

※ステアリングロックの初期化

電源をOFFにして運転席ドアを開閉し、約10秒間お待ちください。ステアリングがロックされれば初期化は完了しています。



アドバイス

- プッシュエンジンスイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- プッシュエンジンスイッチを早押しした場合、電源が切り替わらない場合があります。

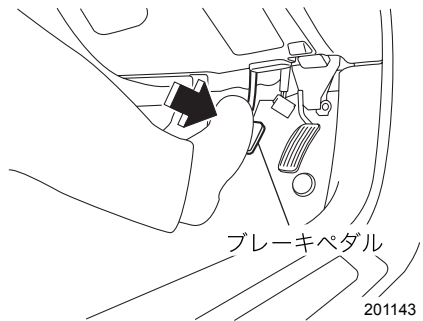
運転する前に

■エンジンの始動（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。

操作方法

- ① アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ セレクトレバーが[P]であることを確認します（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください）。
- ④ プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（[N]で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。

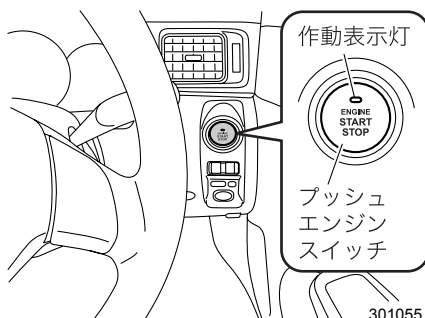


201143

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑤ ブレーキペダルを踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。

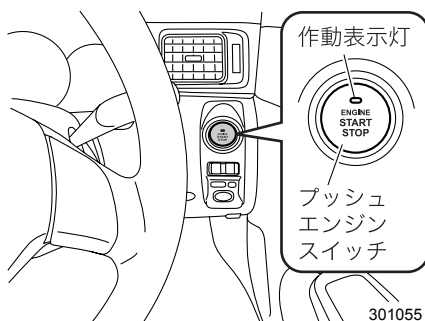
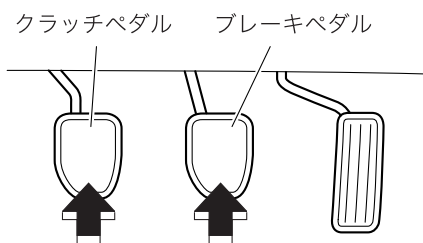


■エンジンの始動（マニュアル車）

クラッチペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。


操作方法

- ① アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
- ④ ブレーキペダルを踏みます。
- ⑤ プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色になるまで、クラッチペダルを踏み込みます。
- ⑥ クラッチペダルを踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。



 **警告**

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒に陥るおそれがあります。
- エンジン始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が緑色に点滅しているときは、絶対に走行しないでください。ステアリングロックが解除されていない状態で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意**

- プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が橙色に点滅しているときは、車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- エンジン始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の表示灯が緑色に点滅しているときは、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上プッシュエンジンスイッチを押し続けしないでください。スターターが回り続けるため、故障の原因になります。
- 1回でエンジンがかからないときは一旦、電源をOFFに戻してください。10秒間放置してからもう一度ブレーキペダルを踏みながら、プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、または水温表示灯（青色）が点灯している間、アイドリング回転が高めに保たれます。
- バッテリーが上がるとステアリングロックが解除できません。バッテリーを充電してください。
- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。その際はステアリングロックの初期化[※]を行ってください。

※ ステアリングロックの初期化

電源をOFFにして運転席ドアを開閉し、約10秒間お待ちください。ステアリングがロックされれば初期化は完了しています。

アドバイス

- ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと最大10秒間スターターが回ります。エンジンが始動するとスターターは止まります。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転数が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない、または水温表示灯（青色）が消灯しない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなるのがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドウデフォグスイッチをOFFにした方が、容易に始動します。
- ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏みながらプッシュエンジンスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。
- エンジン始動時にセキュリティ表示灯が点灯してエンジンがかからない場合は、一度プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしてから、再度エンジン始動を行ってください。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにプッシュエンジンスイッチを押して、一度電源をOFFにした後、ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）をさらに強く踏みながらもう一度プッシュエンジンスイッチを押してください。
- エンジンが始動していないときは、ブレーキペダルが硬く感じる場合があります。そのときは通常よりも強くブレーキペダルを踏んで作動表示灯が緑色になることを確認してからプッシュエンジンスイッチを押し、エンジンを始動してください。
- 周辺の電波状況により、通常手順のドアの施錠・解錠およびエンジン始動ができないことがあります。そのときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してドアの施錠・解錠およびエンジン始動を行ってください。

☆2-29、6-54ページ参照

緊急時のエンジン始動方法

通常手順のエンジン始動でエンジンが始動しないときは、次の方法を行ってください。エンジンが始動する場合があります。（緊急時以外は、この方法でエンジンを始動しないでください。）

- オートマチック車はセレクトレバーを **P** にしてから電源の状態を Acc にしてブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けてください。
- マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルにしてから電源の状態を Acc にしてクラッチペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けてください。

■エンジンの停止のしかた

車両を完全に停止させ、プッシュエンジンスイッチを押してください。このときエンジンが停止し、電源がOFFになります。

ただし、オートマチック車はセレクトレバーを **P** にしてからエンジンスイッチを押さないと電源がOFFになりません。

警告

- 走行中はプッシュエンジンスイッチにさわらないでください。プッシュエンジンスイッチを約3秒以上押し続けるとエンジンが停止します。エンジンが停止するとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にエンジンが停止した場合、安全な場所で車両が停止するまでプッシュエンジンスイッチを操作したりドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停止させた後、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

注意

オートマチック車は以下のことに注意してください。

- **P** 以外でエンジンを停止しないでください。
- **P** 以外でエンジンを停止した場合、電源はAccになるためそのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

走行中、プッシュエンジンスイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止させることができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止させないでください。

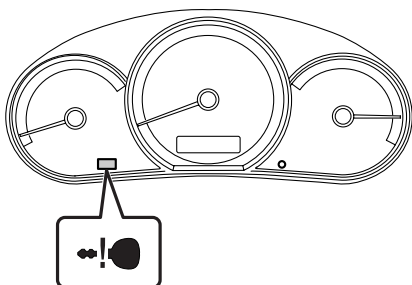
警告音および警告表示による警報

キーレスアクセス & プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため警告音や警告灯の点滅、またはエンジンスイッチ作動表示灯の点滅により警告します。

この場合は適切な処置を行ってください。

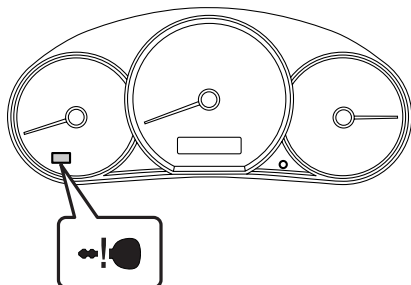
■警告音とキー無し警告灯の点滅による警報

タイプAメーター



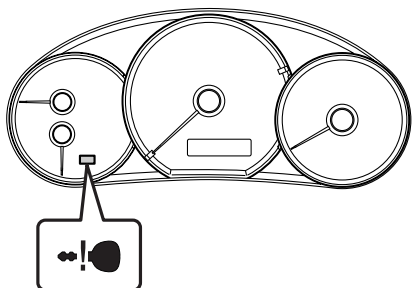
300983

タイプBメーター



201527

タイプCメーター、タイプDメーター、タイプEメーター、タイプFメーター



300984

●半ドア警告

いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態でリクエストスイッチによる施錠操作を行うと警告音が鳴ります。



アドバイス

ドアを閉めて施錠してください。

●閉じ込み防止警告

車内にアクセスキーが放置されている状態で、「キーを使わない車外からの施錠」により全てのドアを施錠しようとした場合、室外ブザーが2秒間鳴り、全てのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。

☆2-37ページ参照



アドバイス

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

●トランク閉じ込み警告（4ドアのみ）

全てのドアが施錠されている状態（または自動施錠のカウント中）で、トランクにアクセスキーを放置したままトランクを閉めた場合、室外ブザーが2秒間鳴ります。この状態でトランクオープンリクエストスイッチを押すとトランクが解錠します。



アドバイス

- トランクからアクセスキーを取り出して、再度トランクを閉めてください。
- トランク内にアクセスキーを放置しないでください。アクセスキーの状態、周囲の状況によってはトランク閉じ込み防止機能が働かず閉じ込める場合があります。アクセスキーを持っていることを確認し、トランクを閉めてください。

●キー置き忘れ警告

電源がOFFのとき車内にアクセスキーが放置されている状態で、ドアを閉め、リクエストスイッチで施錠操作をした場合、室外ブザーが2秒間鳴ります。



アドバイス

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

●キー無し警告

車内にアクセスキーがない状態で走行した場合、室内ブザーが鳴ります。このときメーターのキー無し警告灯も点滅します。



アドバイス

アクセスキーを携帯し走行してください。

●電源切り忘れ警告

次のときにアクセスキーを携帯した状態でリクエストスイッチを押すと、室外ブザーが最長で60秒間鳴り続け、キー無し警告灯が点滅します。

- オートマチック車は電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]のとき
- マニュアル車は電源がOFF以外のとき

アドバイス

- 電源をOFFにしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFにすれば警告ブザーは停止します。

●エンジン始動警告

▼キー無し警告表示

アクセスキーが車内にない状態でプッシュエンジンスイッチを押したとき、警告音が鳴りキー無し警告灯が点滅します。

アドバイス

- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを操作してください。
- アクセスキーが車内検知エリア内にあっても、アクセスキーの状態、周囲の状況によってはキー無し警告表示する場合があります。

●キー持ち出し警告

▼キー持ち出し警告表示

次のときにアクセスキーを携帯した状態で車外に出て、運転席ドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅します。

- オートマチック車は電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]のとき
- マニュアル車は電源がOFF以外のとき

アドバイス

- 電源をOFFにして車の外に出てください。
- アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

▼キー持ち出し警告表示（オートマチック車）

電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅します。



アドバイス

- セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにして車の外に出てください。
- アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

▼同乗者のキー持ち出し警告表示

電源がOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅します。



アドバイス

アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

▼セレクトレバー位置警告表示（オートマチック車）

電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]以外の位置のときに運転席ドアを開けた場合、警告音が鳴ります。



アドバイス

警告があった場合は、セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにして車の外に出てください。

■プッシュエンジンスイッチ作動表示灯の点滅による警報

●キーレスアクセス&プッシュスタートシステム異常警告

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムに異常がある場合プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。



注意

作動表示灯が橙色に点滅したときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

●ステアリングロック未解除警告

エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されていない場合、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点滅します。

この場合は、ハンドルを軽く左右に回しながらブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。

警告

エンジン始動操作を行った場合に、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、絶対に走行しないでください。ステアリングロックが解除されていない状態で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

再度エンジン始動操作を行っても作動表示灯が緑色に点滅している場合は、ステアリングロックの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

●クラッチ位置検出スイッチ異常

電源がOFFで運転席ドアを開けたときにクラッチ位置検出スイッチに異常がある場合、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点滅します。

注意




作動表示灯が緑色に点滅したときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

■警告一覧表

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
ピーツ、 ピーツ、 ・・・ (断続吹鳴)	—	—	—	電源がAccのとき、運 転席ドアを開けた。 (オートマチック車は セレクターが[P]の とき)	運転席ドアを閉めてか ら電源をOFFしてく ださい。 ※車両から離れるとき は必ず電源をOFFに してください。
				運転席ドアが開いてい るとき、電源をOFFに した。	運転席ドアを閉めてく ださい。
—	ピー (2秒間 吹鳴)	—	—	車内にアクセスキーが 放置されている状態で 全てのドアを施錠しよ うとした。	アクセスキーを車外に 持ち出した上でドアの 施錠操作を行ってくだ さい。 ※室内にアクセスキー がある状態ではドア の施錠操作はできま せん。 ※警告ブザーとともに 全ドアが解錠されま す。
				全てのドアが施錠され ている状態 (もしくは自 動施錠のカウント中) で、トランクにアクセ スキーを放置したまま トランクを閉めた。 (4ドアのみ)	トランクからアクセ スキーを取り出した上で トランクを閉めてくだ さい。 ※この警告ブザーが吹 鳴した後、トランク オープナーリクエスト スイッチを押せば トランクを解錠する ことができます。
				電源がOFFのとき、ア クセスキーが車内にあ る状態でリクエストス イッチを押した。	アクセスキーを車外に 持ち出した上でドアの 施錠操作を行ってくだ さい。 ※室内にアクセスキー がある状態ではドア の施錠操作はできま せん。

運転
する
前に

キーレスアクセス&プッシュスタート

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
—	ピーー (最長 10秒間 吹鳴)	—	—	電源がOFFのとき、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態で、リクエストスイッチを押した。	ドアを確実に閉めて施錠操作を行ってください。 ※いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態では施錠できません。
—	ピーー— (最長 60秒間 吹鳴)	—	—	電源がOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態でリクエストスイッチを押した。（オートマチック車はセレクトレバーが[P]のとき）	アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFしてください。 ※電源をOFFにしないとドアの施錠操作はできません。
ピッ	—		—	車内にアクセスキーがない状態で走行した。 車内にアクセスキーがない状態でプッシュエンジンスイッチを押した。	アクセスキーを携帯して走行してください。 アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
ピッ	ピッピッピッ (3回吹鳴)		—	電源がOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席ドアを閉めた。（オートマチック車はセレクトレバーが[P]のとき） 電源がOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた。	電源をOFFにした上で車外に出てください。 アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFしてください。
ピーー— (連続吹鳴)	ピーー— (連続吹鳴)		—	電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]以外 のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた。	セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにした上で車外に出てください。
ピーー— (連続吹鳴)	—	—	—	電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]以外 のとき、運転席ドアを開けた。	セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにした上で車外に出てください。

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
ピッ	—	—	—	電源をOFFにした。	アクセスキーの電池残量が低下しているの で、電池を交換してく ださい。
—	—	—	緑点滅 (最長 15秒間)	エンジン始動操作をし たが、ハンドルのロッ クが解除されていない。	ハンドルを軽く左右に 回しながら、ブレーキ ペダルを踏み、プッ シュエンジンスイッチ を押してください。
—	—	—	橙点滅	電源システムやステア リングロックの異常が 検出された。	直ちにスバル販売店に 連絡し、点検を受けて ください。
—	—	—	緑点滅	電源がOFFで運転席を 開けたときに、クラッ チの位置検出スイッチ の異常が検出された。	直ちにスバル販売店に 連絡し、点検を受けて ください。

運転する前に

キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法

長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止させることができます。

キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止させた場合でも電波式リモコンドアロックは作動します。

アドバイス

- この設定は、スバル販売店でもできます。詳しくは、スバル販売店にご相談ください。
 - 機能を停止させた場合、エンジンを始動させるときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法を行ってください。
- ☆2-29ページ参照

●機能を停止させるとき

- ① 運転席に座りドアを閉めてください。
- ② 集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を押してください。
- ③ ②の操作後、5秒以内に運転席ドアを開けてください。
- ④ ③の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を2回押してください。
- ⑤ ④の操作後、30秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を2回行ってください。
- ⑥ ⑤の操作後、30秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を2回押してください。
- ⑦ ⑥の操作後、30秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を1回行ってください。
- ⑧ ⑦の操作後、5秒以内にドアを閉めます。ブザーが2回鳴り、機能を停止することができます。

アドバイス

- ④および⑥の操作では集中ドアロックスイッチはゆっくりと押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しない場合があります。

●機能を復帰させるとき

機能の停止手順をもう一度行くと機能を復帰させることができます。
このときブザーが1回鳴ります。

アクセスキーが正常に作動しないとき

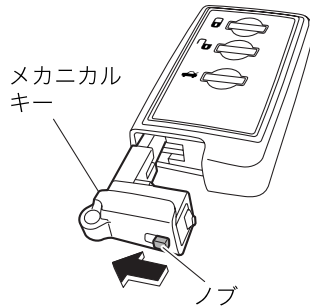
強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

☆6-54ページ参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

アクセスキーのノブを引きながらメカニカルキーを取り出します。

メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。



201149

運転する前に



アドバイス

- 盗難警報装置が作動している場合は警報が鳴ります。
アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照して電源 ON またはエンジン始動をしてください。

☆2-30、2-31ページ参照

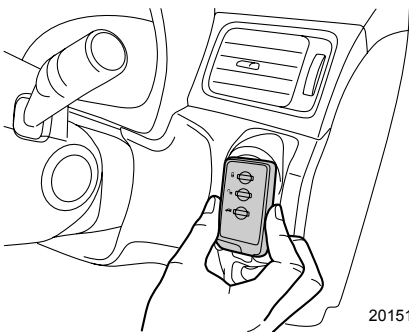
- 施錠・解錠に使った後、外したメカニカルキーは必ず元の位置（アクセスキー）へ付けてご使用ください。

■ アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動 (オートマチック車)

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

● 電源をONにするとき

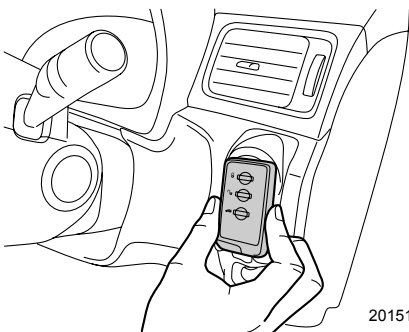
- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが **P** であることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー音 (ピッ) が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
- ⑤ 作動表示灯が緑色に点灯してから約 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押してください。



201513

● エンジンを始動するとき

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが **P** であることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー音 (ピッ) が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
- ⑤ 作動表示灯が緑色に点灯してから約 5 秒以内に、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押してください。



201513

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びたもの、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

 **アドバイス**

ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザー音が鳴らない場合があります。ブザー音が鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。ブザー音が鳴らない場合でも、作動表示灯が緑色に点灯していればエンジン始動および電源ONは可能です。

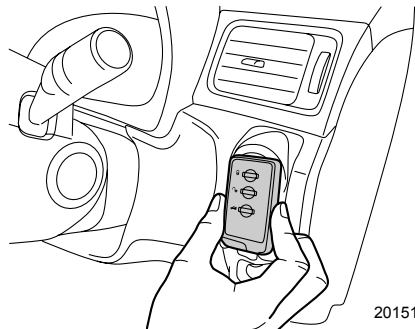
運転する前に

■ **アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動(マニュアル車)**

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

● **電源をONにするとき**

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
- ③ クラッチペダルを踏みます。
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー音(ピッ)が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
- ⑤ 作動表示灯が緑色に点灯してから約5秒以内に、クラッチペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押してください。



201513

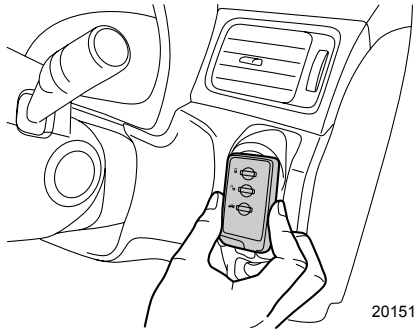
● **エンジンを始動するとき**

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ クラッチペダルを踏みます。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑤ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー音（ビップ）が鳴り、プッシュエンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
- ⑥ 作動表示灯が緑色に点灯してから約 5 秒以内に、ブレーキペダル、クラッチペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押してください。



201513

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びたもの、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 アドバイス

ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザー音が鳴らない場合があります。ブザー音が鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。ブザー音が鳴らない場合でも、作動表示灯が緑色に点灯していればエンジン始動および電源ONは可能です。

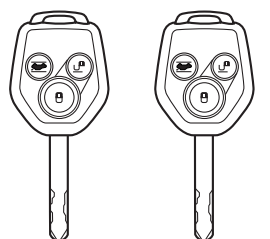
各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使用します。

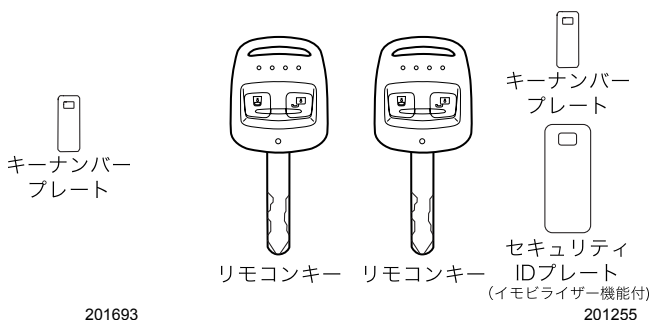
☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-2ページをご覧ください。

<4ドア>



リモコンキー リモコンキー

<5ドア>



リモコンキー リモコンキー

キーナンバー
プレート

セキュリティ
IDプレート
(イモビライザー機能付)
201255

201693

リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲートの施錠および解錠、トランクの解錠がボタンで操作できます。

- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。
- セキュリティIDプレートには、キーをイモビライザーに登録するためのセキュリティIDが打刻してあります。

アドバイス

- キーナンバープレートとセキュリティIDプレート（イモビライザー機能装備車）は、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティIDプレートは車内に置かないでください。
- 万々に備えてキーナンバーとセキュリティID（イモビライザー機能装備車）をメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）■

イモビライザーキーには、個々の違った識別コードが登録されています。

差し込まれたキーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードのないキーなどではエンジンを始動することができません。

注意

キーは水にぬらさないでください。

運転する前に

🏠 アドバイス

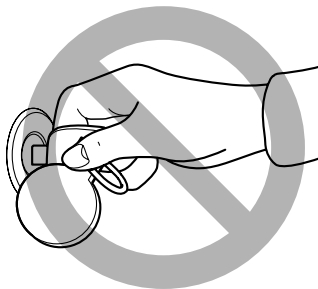
- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアをロックしてください。
- イモビライザーキーは、最大4つまで登録できます。
- セキュリティIDプレートは車両以外の場所で大切に保管してください。セキュリティIDプレートに打刻されているセキュリティIDが合いかぎを作る際、必要になります。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため全てのキーの識別コードの再登録、リモコンの再登録をお奨めします。登録は、スバル販売店でのみ行えます。

● セキュリティ表示灯

エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときは点滅しています。エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯し、エンジンの始動ができます。正規のキー以外を使うと、表示灯が点灯しエンジンを始動できません。もし、正規のキーを使っても始動できない場合、一旦キーを抜いて再度やり直してください。

⚠️ 注意

- 強い磁石の近くにはキーを置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
- ダッシュボードの上など高温になる場所にキーを置かないでください。
- キーを水にぬらさないでください。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
 - ① キーグリップに金属製のものが接しているとき



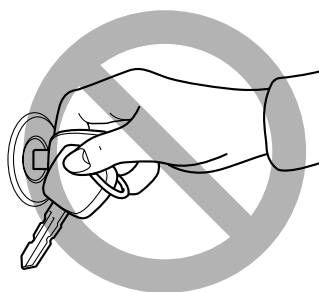
200376

- ② キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき



200377

- ③ キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき



200378

- ④ キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき

運転する前に

アドバイス

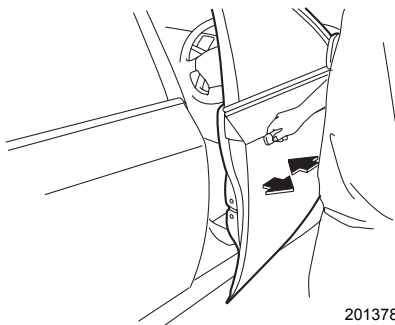
エンジンスイッチにキーを差したままにしておくと、セキュリティ表示灯が再度点滅しますが、エンジン始動はできます。

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。

ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



201378

⚠ 注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を十分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。
- ドアを閉めるときは、手や指などを挟まないようにご注意ください。

🏠 アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆2-39、3-4ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので、状況に合わせて選択してください。

施錠している場合

- お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

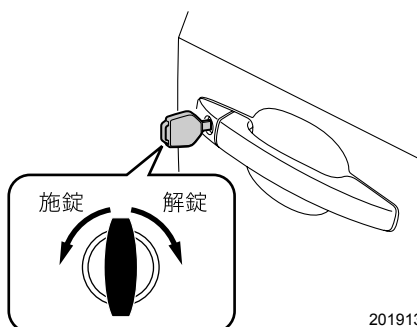
解錠している場合

万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■車外からキーによる施錠・解錠

キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-29ページをご覧ください。



201913

🏠 アドバイス

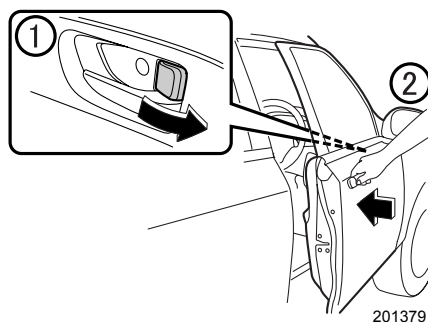
- 車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。その他のドアはドアロックノブまたは集中ドアロックスイッチで施錠・解錠してください。
- 盗難警報装置を作動させた状態でキーによる解錠を行うと警報が作動します。
- キーによる施錠では、盗難警報装置は作動しません。

☆2-43ページ参照

■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

- ① ドアロックノブを後ろ側に引きます。
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

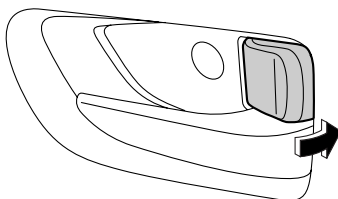


201379

運転する前に

●リヤドア

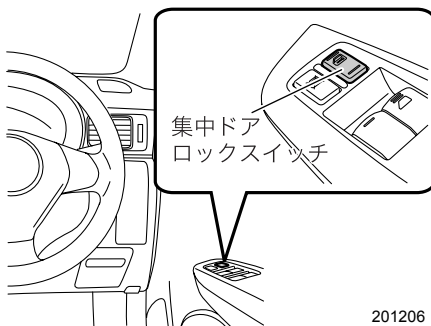
ドアロックノブを後ろ側に引いてドアを閉めます。



201205

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチを前側（☒側）に押しと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠されます。後ろ側に押しと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。



201206

⚠ 注意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは、集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

ドアを施錠しないように働き、キーを車内に残したままになることを防止する機能です。この機能は、以下の状態のときに作動します。

- キーレスアクセス&プッシュスタート装着車はエンジンスイッチがAccまたはONのとき
- キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外はエンジンスイッチにキーが差し込んだとき

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチを前側（☒側）に押したとき


▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき
- 車外から合いかぎを使い施錠したとき

▼キー閉じ込み防止機能のカスタマイズ

キー閉じ込み防止機能の作動あり/作動なしの設定を変更することができます。

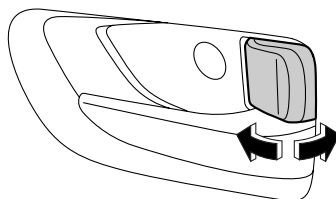
☆1-2ページ参照


アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを後ろ側に引くと施錠され、前側に押すと解錠します。(施錠されると赤マークが見えなくなります)



運転する前に

■キー抜き忘れ警報

201207

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。


■バッテリー上がり防止機能

半ドアなどでルームランプとエンジンキー（イグニッションキー）照明が点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約20分後に自動的に消灯します。

●バッテリー上がり防止機能のカスタマイズ

バッテリー上がり防止機能の作動あり/作動なしの設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照


アドバイス


- 車から離れるときは、必ずドアが確実に閉まっているかを確認してください。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装着車はエンジンスイッチが Acc またはONのとき作動しません。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外はエンジンスイッチにキーが差し込んでであると作動しません。

電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠


リモコンキーのボタンを押すと電波により、車から離れたところから全ドア（リヤゲート／トランクを含む）の施錠・解錠ができます。

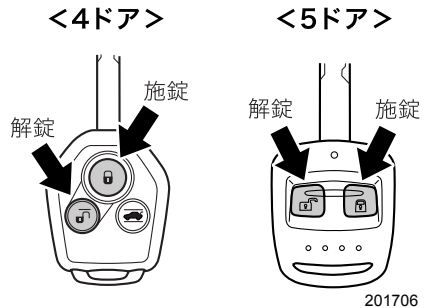
☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-11ページをご覧ください。

■解錠

車のまわりからリモコンキーの「」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このとき同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

■施錠

車のまわりからリモコンキーの「」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このとき同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。




アドバイス

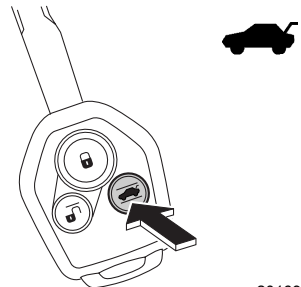
- 車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。
- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

☆6-49ページ参照

4ドアの場合、トランクを開けたまま施錠すると非常点滅灯（ハザードランプ）が5回点滅し、トランクが開いていることをお知らせします。

■トランクの解錠（4ドア）

車のまわりから「」ボタンを約 1.5 秒以上押すとトランクが開きます。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。




■非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅のカスタマイズ

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）およびルームランプの連動

リモコンキーにより解錠またはドアの開閉を行うと、エンジンキー照明およびルームランプ（スイッチがDOOR位置にあるとき）が点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中次の操作をするとエンジンキー照明およびルームランプは消灯します。

- リモコンキーの  ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- エンジンスイッチをAcc（ルームランプのみ消灯）またはONにした場合

●ルームランプ点灯時間のカスタマイズ

ルームランプ点灯時間の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

■自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

このとき、盗難警報装置も作動します。

●自動施錠のカスタマイズ

自動施錠の作動あり / 作動なしの設定と施錠されるまでの時間の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

注意

航空機内はリモコンキーなどの無線機器の使用が禁止されています。航空機内ではキーのボタンを押さないでください。

アドバイス

- 電波式リモコンドアロックは車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、ドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアの場合、作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - － ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - － 強い衝撃を与えないでください。
 - － 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
 - － 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は、盗難などを防ぐためリモコンの再登録をお奨めします。リモコンの再登録をするときは、スバル販売店にご相談ください。

盗難警報装置

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外でドア（リヤゲート含む）またはトランクが開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー装着車のみ）以下の警報で周囲に異常を知らせます。

- 30秒間、車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-6、2-11、2-40ページ参照

この機能の初期設定は作動なしとなっております。この機能を使用する場合、警報の設定を作動ありに設定してください。

☆2-46ページ参照

注意

盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。



車から離れるときは、車内に金品、貴金属などを置かないでください。


アドバイス

- 30秒間鳴り続けた後も、ドアが開いたままになっている場合、最長3分間、警報が鳴り続けます。また、ドアを閉めると最長30秒後には警報は止まります。
- 一旦、盗難警報装置を監視状態にすると、キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外では解除できません。

●盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にするには

全てのドア（リヤゲート含む）およびトランクを閉めます。以下の操作で施錠すると約30秒の待機時間（監視を行なわない状態）の後、監視状態に入ります。

- リクエストスイッチを押す
- アクセスキーの  ボタンを押す
- リモコンキーの  ボタンを押す

監視状態に入るとメーター内のセキュリティ表示灯  が2回連続の点滅を繰り返します。この方法以外（キーによる施錠、車内からキーを使わず施錠）では盗難警報装置は監視状態に入りません。


☆2-37ページ参照

〈4ドアの機能〉

トランクを開けたままで、以下の操作で施錠した場合は、監視状態にはなりません。

- ドアハンドルのリクエストスイッチを押す
- アクセスキーの  ボタンを押す
- リモコンキーの  ボタンを押す

トランクを閉めてから約30秒待機状態の後、監視状態に入ります。


また、盗難警報装置を作動させた状態で、リクエストスイッチまたはアクセスキーの  ボタンでトランクを開けた場合、監視状態から待機状態へ切り替わります。トランクを閉めると約30秒待機状態の後、監視状態へ戻ります。





アドバイス

- 待機状態中は、セキュリティ表示灯がすばやく点滅します。
- 30秒の待機状態中に次のことを行った場合、監視状態には移りません。
 - ー キーレスエントリーでドアを解錠したとき
 - ー いずれかのドア（リヤゲートも含む）を開けたとき
 - ー アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにしたとき（プッシュスタート装着車）
 - ー エンジンスイッチをONにしたとき（プッシュスタート装着車以外）
- 30秒の待機状態の時間を待機時間なしに設定変更ができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。また、ナビゲーション装着車では画面上で同様の設定ができます。詳しくはナビゲーション用取扱説明書をご覧ください。
- 自動施錠の機能が作動した場合にも盗難警報装置が監視状態に移ります。
☆2-10ページ参照
- 監視状態のまま、バッテリーが上がったときは、キーレスエントリーでは解錠できません。このときはキーまたはメカニカルキーを使用して解錠しますが、バッテリーを充電、もしくは新品に交換した際に監視状態で復帰しますのでドアを開けたままにしておいたり、そのままドアを開けると警報が作動します。
- キーレスアクセス機能や電波式リモコンドアロックによる施錠や自動施錠時、ドアを施錠動作の直前で開くと警報が鳴り始める場合があります。

●盗難警報装置の監視状態を解除するには

以下の操作で解錠すると監視状態が解除されます。解除されるとメーター内のセキュリティ表示灯はゆっくり点滅（イモビライザー装備車）または消灯（イモビライザー装備車以外）します。

- リクエストスイッチやアクセスキーのボタンを押す
- リモコンキーのボタンを押す

アドバイス

ドアのキーシリンダーにキーまたはメカニカルキーを差し、回して解錠もしくは車内からキーを使わず解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2-37ページ参照

●警報を作動させてしまったときには

解除方法として以下のいずれかの操作をすると解除できます。

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯し、リクエストスイッチを押す
- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにする

アドバイス

アクセスキーの電池残量が少なくなった場合は、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてAccにしてください。

☆2-30、2-31ページ参照

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

- リモコンキーのいずれかのボタンを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込み、エンジンスイッチをONにする

●警報の設定

盗難警報装置は作動あり、作動なしの設定に切り替えることができます。
以下の方法で切り替えることができます。

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

- ① 盗難警報装置の監視状態を解除してください。
☆2-45ページ参照
- ② 運転席に座り、全てのドア（リヤゲート含む）およびトランクが閉まっていることを確認してください。
- ③ プッシュエンジンスイッチを押してONにしてください。
- ④ 運転席ドアを開けると同時に集中ドアロックスイッチを後ろ側（解錠側）に押し、10秒間保持してください。
- ⑤ ホーンが鳴り設定が切り替わります。
新しい設定がオドメーター／トリップメーターに表示されます。

作動なし：ホーンが2回鳴ります。

メーター表示

オドメーター／トリップメーター [AL OF]

作動あり：ホーンが1回鳴ります。

メーター表示

オドメーター／トリップメーター [AL ON]

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

- ① 盗難警報装置の監視状態を解除してください。
☆2-45ページ参照
- ② 運転席に座り、全てのドア（リヤゲート含む）およびトランクが閉まっていることを確認してください。
- ③ 10秒以内にエンジンスイッチをOFF→ONを3回繰り返し、ONで止めてください。
- ④ ③の後、10秒以内に運転席ドアを一旦開けて、ドアを閉めてください。
現在の設定がオドメーター／トリップメーターに表示されます。
- ⑤ ④の後、10秒以内に集中ドアロックスイッチを下記のように3回操作してください。
新しい設定に切り変わるとブザーが鳴り、新しい設定がオドメーター／トリップメーターに表示されます。

作動なし：集中ドアロックスイッチをアンロック側（後ろ側）に3回操作してください。

メーター表示

オドメーター／トリップメーター [AL OF]

作動あり：集中ドアロックスイッチをロック側（前側）に3回操作してください。

メーター表示

オドメーター／トリップメーター [AL ON]

▼ナビゲーション装着車


メーカーオプションのナビゲーション装着車では画面上で設定ができます。詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。



アドバイス

この設定は、スバル販売店でもできます。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

●警報の作動履歴

メーター内のセキュリティ表示灯  が点滅して、警報が作動したことを運転者に知らせます。警報が作動した原因により点滅の回数が変わります。

- エンジンスイッチをONにしたとき1秒間点灯した後に、以下の点滅で運転者に知らせます。
 - ドア（リヤゲートを含む）が開けられた場合：5回
 - トランクが開けられた場合：4回
 - 強い衝撃を受けたときまたは、衝撃を何回も受けたとき：2回
(ディーラーオプションの衝撃センサー装着車のみ)
 - 弱い衝撃を受けたとき：1回
(ディーラーオプションの衝撃センサー装着車のみ)

☆2-34ページ参照



アドバイス

警報の作動履歴は、盗難警報装置を再度監視状態にすると消去されます。

■ルームランプ点灯

ルームランプのスイッチがDOOR位置にあるとき、警報が作動するとルームランプが点灯します。

この機能の初期設定は作動なしとなっております。この機能を使用する場合、ルームランプの設定を作動ありに設定してください。

☆1-2ページ参照

●ルームランプ点灯のカスタマイズ

スバル販売店でルームランプ点灯を作動あり/作動なしに設定することができます。

☆1-2ページ参照

●衝撃センサー（ディーラーオプション）

ディーラーオプションの衝撃センサーが装着されている場合は、車両に衝撃が加えられたときに警報が作動します。

また、センサーの配線が切断した場合にも警報が作動します。

軽い衝撃を受けたときは、短時間のホーンと非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅による警告、強い衝撃、または衝撃を何回も受けたときは約30秒間のホーン音と非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅による警報が作動します。

アドバイス

- 衝撃センサーは必ずしも全ての破壊行為に対して検知できるものではありません。また、振動が加わらないような破壊行為の場合（脱出用工具によるガラス破壊など）は、本センサーでは検知できません。
- また、下記などの振動が車両に加わった場合、警報が鳴る可能性がありますので駐車する場所に応じて警報、衝撃センサーの設定を行ってください。
例) 工事現場からの振動
立体駐車場の振動
電車通過による振動
フェリー乗船中の駐車時の振動
など
- 衝撃センサーの取り付け取り外しは、特殊な設定が必要になります。スバル販売店にお申し付けください。
- 衝撃センサーをスバル販売店以外で取り外した場合、センサーの配線が切断されたと判断し、警報が作動します。取り外しはスバル販売店にお申し付けください。
- スバル純正リモコンエンジンスターターでエンジンをかけている間は衝撃センサーの機能は停止します。

▼衝撃センサーのカスタマイズ

スバル販売店で作動あり/作動なし、および感度の設定ができます。

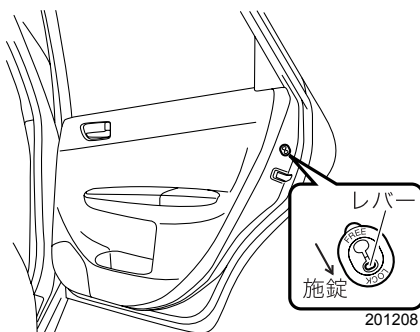
☆1-2ページ参照

チャイルドブーフ

左右のリヤドアにあります。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドブーフのレバーを「LOCK」側に動かしてドアを閉めると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくなります。解除するときはレバーを「FREE」側に動かしてください。



運転する前に

■チャイルドブーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引いて開けます。

車内から開けるときは、ドアロックノブを解錠にし、ウィンドウを下げ車外のドアハンドルを引いて開けます。

パワーウィンドウ

パワーウィンドウは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

警告

- パワーウィンドウが閉まる時には大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウィンドウスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2-52ページ参照

注意

- ウィンドウの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けしないでください。パワーウィンドウの故障の原因になります。
- 車両から離れる場合は、必ずお子さまも一緒にお連れください。お子さまのいたずらなどによる誤操作で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 車体の構造上、後席のウィンドウを全開にすることはできません。
- 下記操作を行うとパワーウィンドウのブレーカーが作動してウィンドウの開閉ができなくなることがあります。
 - ー 運転席ウィンドウを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
 - ー 3席以上のウィンドウを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウィンドウの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、運転席ウィンドウの自動全開（全閉）およびウィンドウ反転機能は作動しません。

☆2-53ページ参照

■スイッチの操作

●運転席ウィンドウの開閉操作方法

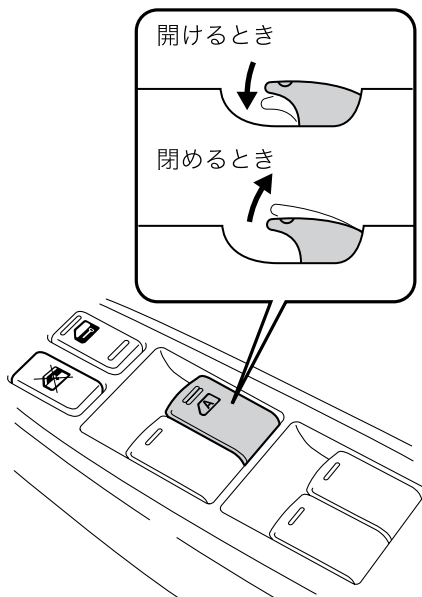
スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：

- スwitchを軽く押します。押している間ウィンドウが下降します。
- スwitchを強く押すと自動で全開になります。途中でウィンドウの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

閉めるとき：

- スwitchを軽く引き上げます。引き上げている間ウィンドウが上昇します。
- スwitchを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウィンドウの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。



201161

運転する前に



アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定をしてください。

初期設定がされないと運転席ウィンドウは自動で全開（全閉）しません。

☆2-53ページ参照

●オフディレイ機能（キー OFF後の作動）

運転席のウィンドウはエンジンスイッチをONからAccまたはLOCK（OFF）にした後でも、約30秒間は昇降することができます。ただし、その約30秒の間に運転席のドアを開けて閉めると、ウィンドウの昇降はできなくなります。

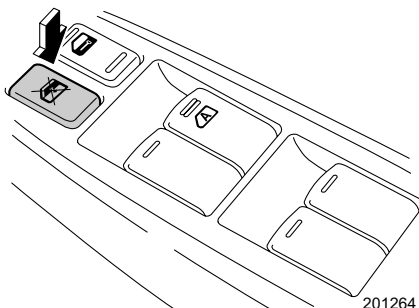


アドバイス

昇降ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウィンドウは開閉できなくなります。(ロック状態)

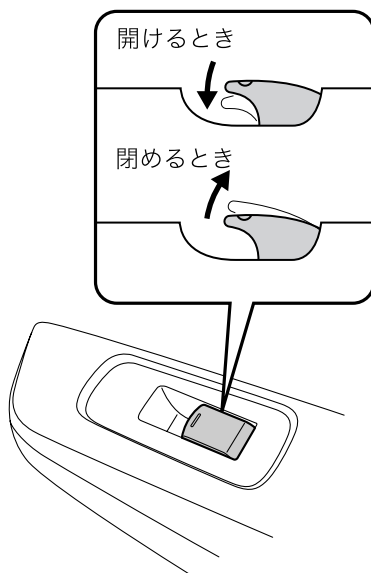


●助手席、後席ウィンドウの操作方法

それぞれのウィンドウを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。

閉めるとき：スイッチを引きます。



■ ウィンドウ反転機能

運転席のウィンドウが自動全閉中、窓枠とウィンドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウィンドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

注意

ウィンドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウィンドウに加わるとウィンドウ反転機能が作動することがあります。
- ウィンドウ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウィンドウの操作をすることができません。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定をしてください。
初期設定がされないと、ウィンドウ反転機能が作動しません。

■ パワーウィンドウの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定を行ってください。パワーウィンドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウィンドウの自動全開（全閉）

☆2-51ページ参照

- ウィンドウ反転機能

● 初期設定のしかた

- ① ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。
- ② 運転席ウィンドウスイッチを下に押し、半分くらいまでウィンドウを開けます。
- ③ 運転席ウィンドウスイッチを上を引き続け、ウィンドウを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上を引き続けてください。

フューエルリッド（燃料補給口）

メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料補給口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

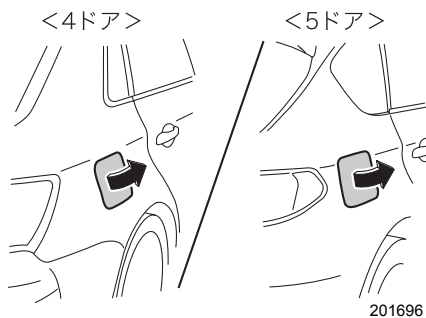
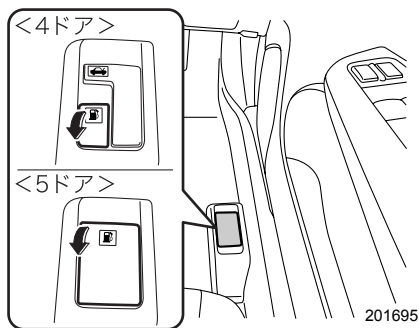


300826

	使用燃料	タンク容量
ターボ車	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	約60ℓ
ターボ車以外	無鉛レギュラーガソリン	

■フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

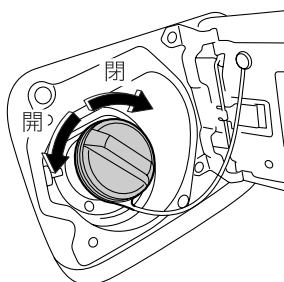
開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。



閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料補給口）を手で押し付けてください。

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。
燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。

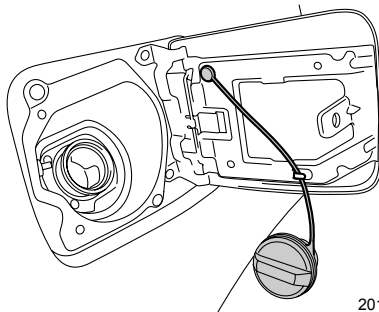


201505

フューエルキャップを外したときは、キャップをフューエルリッドにかけてください。

タイプA

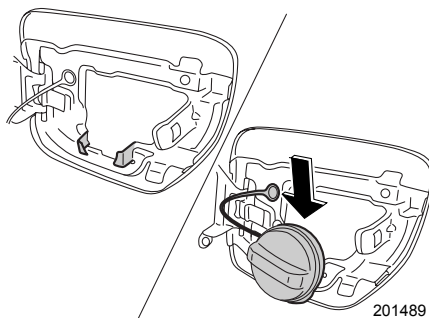
キャップについているコードをフューエルリッド内側のフックにかけます。



201506

タイプB

キャップをフューエルリッド内側にかけます。



201489


運転する前に

 **警告**

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に引火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1-8ページ参照

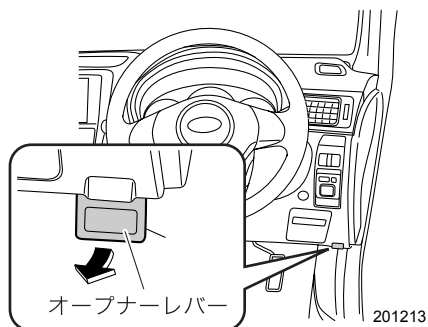
 **注意**

セルフ給油のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。

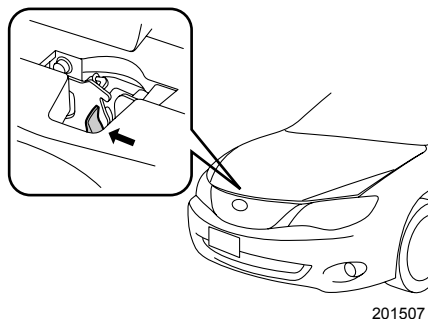
ボンネット

■開けるとき

- ① ボンネットのオープナーレバーを引きます。
運転席側のインストルメントパネル右下に
あります。



- ② フロントグリルとボンネットのすき間から
レバーを左に押し、ロックを外し、ボン
ネットを持ち上げます。



■閉めるとき

WRX STI spec Cは、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約30 cm）手を離します。

確実にロックされていることを確認してください。

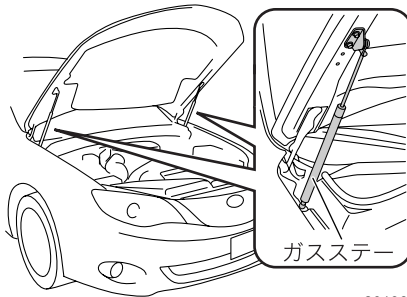
WRX STI spec C 以外は、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約15 cm）手を離します。

確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

ボンネットを開閉するときは次のことに注意してください。

- 走行後すぐには開けるときのには、部品が熱くなっているので、やけどしないように注意してください。
- ボンネットを開けるときのにはワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- ボンネットを閉めるときにはボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。ボンネットが閉まる場合があります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのガスステーが取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ガスステー部分にうすいビニール袋、テープなどが噛み込まないように注意してください。また、点検や清掃のときにステー部分に傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ボンネットが自然に閉じてしまう場合があります。



201380

- ーボンネットにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ーステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。

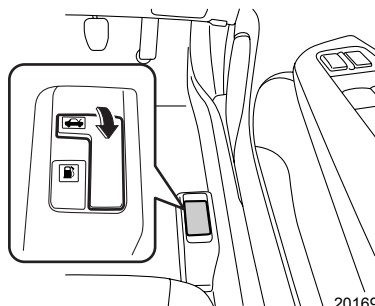
トランク (4ドア)

アドバイス

車から離れるときには
盗難防止のため、トランクの中に貴重品を置かないでください。


■車内から開けるには

トランクオープナーレバーを引きます。

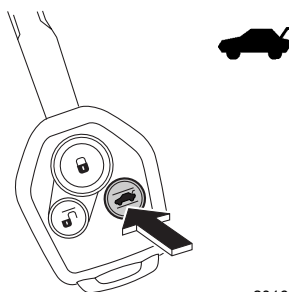


201697

■車外から開けるには

リモコンキーの  ボタンを約 1.5 秒以上押します。

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、
2-8ページをご覧ください。



201694

■閉めるとき

上から押さえつけるように閉めると自動的にロックされます。

警告

- 走行するときはトランク内に人を絶対に乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- トランクは中から開けることができません。お子さまが入らないよう注意してください。閉じ込められると重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

- 走行するときはトランクを完全に閉めてください。開けたまま走行すると車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- トランクを開けるときにはワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。トランクとワイパーアームが接触しトランクを傷つけるおそれがあります。
- トランクを閉めるときには荷物や手足（近くのお子さまを含む）を挟まないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合にはとくに注意してください。また、エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- トランクを閉めるときにはトランクを上から強く押しつけないでください。トランクがへこむことがあります。

アドバイス

- トランクの中にキーを置き忘れないようご注意ください。
- トランクルームランプは、トランクを開けると点灯し、閉じると消灯します。
- 長時間開けたままにすると、トランクルームランプが点灯したままとなりバッテリー上がりの原因になります。

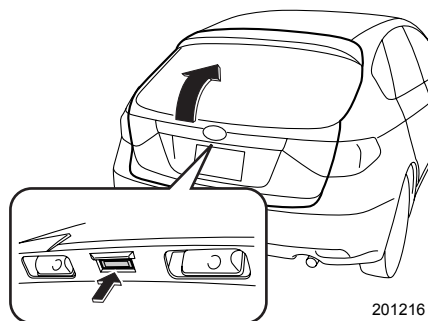
リヤゲート（5ドア）

リヤゲートは次を操作することで施錠・解錠ができます。

- 電波式リモコンドアロック
- 集中ドアロックスイッチ
- キーレスアクセス機能

■開けるとき

リヤゲートオープナースイッチを押してリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。



201216

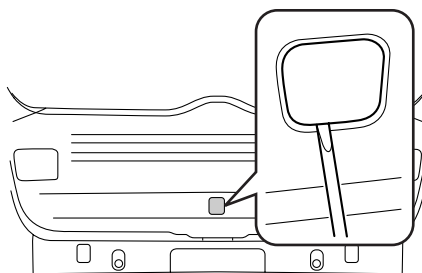
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。半ドアでないことを確かめます。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのカバーを外します。



201286

② マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。



201287

 **注意**

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前には、リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- 応急処置用解錠レバーは指で操作しないでください。けがをするおそれがありますので、必ずドライバーなどを使用してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部にうすいビニール袋、テープなどが噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスパル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

 **アドバイス**

リヤゲートを開閉するとき

- リヤゲートオープナースイッチを押すと同時にリヤゲートを開けようとした場合、リヤゲートが開かないことがあります。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

シート

正しい運転（乗車）姿勢

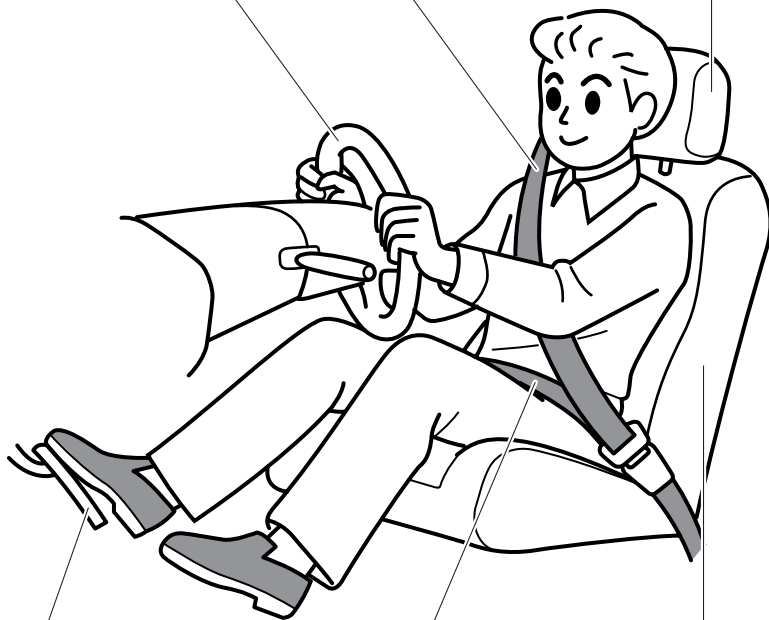
無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

☆2-74ページ参照

ハンドル操作が
楽にできること
（運転席）

ねじれ、たるみがなく
肩に充分かかること

ヘッドレストの中央が耳の後方にくること
（フロントヘッドレストのみ）



ペダルが充分に
踏み込めること
（運転席）

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること

背当てではできるだけ立てて背中を
離さず、深く腰掛けること
（ハンドルに近づき過ぎないこと）

運転する前に

201390

警告

シートなどを調整するときは、次の事項を必ず守ってください。重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は、必ず走行を始める前に行ってください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなる、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなる、運転への注意がそれ運転ミスを起こすなどの重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万有的时候、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万有的时候頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。前席ヘッドレストは、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。後席ヘッドレストは、格納位置から一段上げた位置で使用してください。

注意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

アドバイス

- 納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。
- RECARO製シート（タイプB）は、乗降するときに身体が座面のサイドサポート部に当たり、シートに擦り傷がつくことがあります。

フロントシート

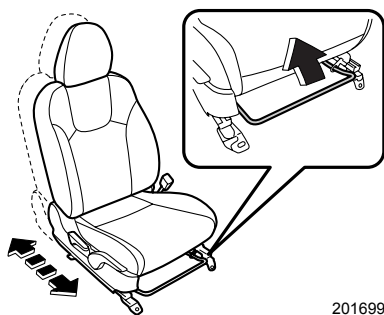
■マニュアルシート

シートのドア側と下部のレバー操作で調整ができます。

●スライド調整（前後の調整）

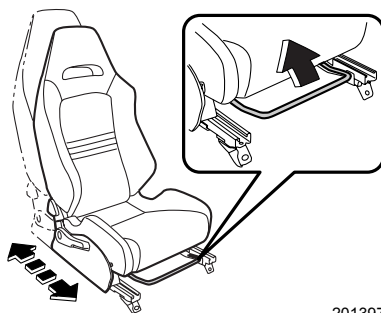
下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

タイプA



201699

タイプB



201397



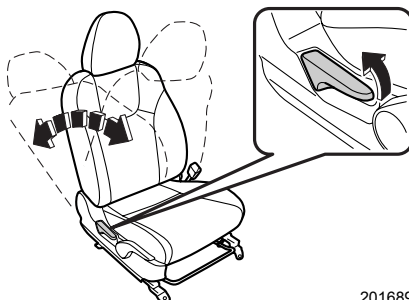
注意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

タイプA

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



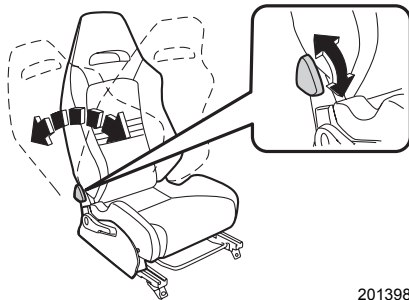
201689

注意

- 調整するには、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。
- 背当てを起こすときは、背当てを押さえながらゆっくりと戻してください。背当てが急に戻り、顔や身体にけがをするおそれがあります。

タイプB

ダイヤルを回してバックレストの傾きを調整します。調整するときは、背中をバックレストから少し浮かせるようにすると簡単に調整できます。

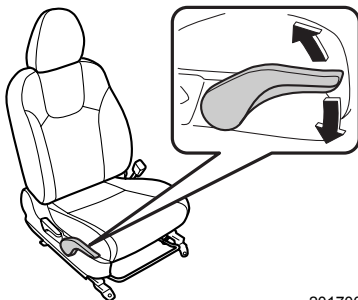


201398

● 上下調整（運転席のみ）

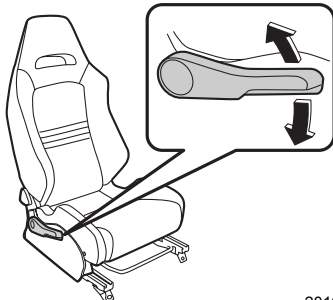
レバーを引くたびに上がります。また、押すたびに下がります。

タイプA



201700

タイプB



201692

■ パワーシート

シートのドア側のスイッチ操作で調整ができます。

注意

操作するときには

スイッチ部に異物を挟まないようにご注意ください。走行中、予期しないときに動くことがあります。

🏠 アドバイス

バッテリー上がりに注意

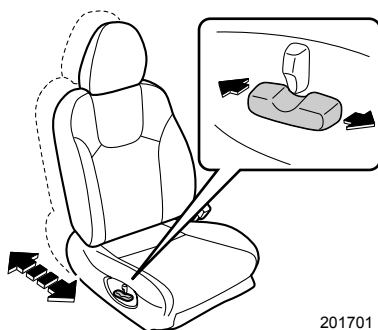
エンジンがかかっているときに調整してください。

操作するときには

- 調整できる終点まで移動させたときにスイッチを押し続けしないでください。故障の原因になります。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しないでください。故障の原因になります。

●スライド調整（前後の調整）

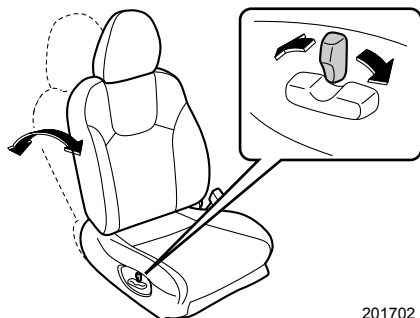
スイッチ全体を前後に動かして調整します。



201701

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

リクライニングスイッチを前後に動かして背当て角度を調整します。



201702

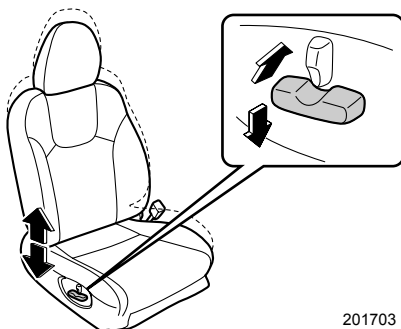
🏠 アドバイス

リクライニング調整中は

リクライニング調整と他の調整を同時に行わないでください。

●上下調整

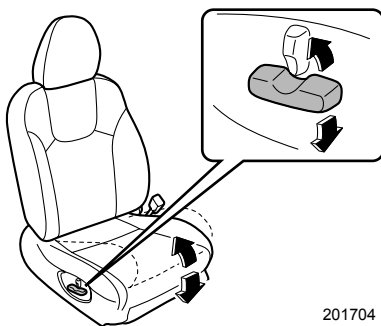
スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。



201703

●座面前側の高さ調整

スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。



201704

■シートヒーター

エンジンスイッチが Acc または ON のときダイヤルを回すとシートが暖まります。4段階の温度調整ができます。作動中は表示灯が点灯します。

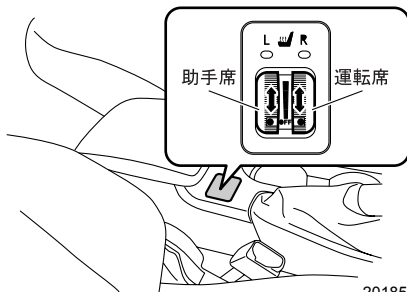
4：早く暖めたいときに使います。

暖まったら好みの位置にダイヤルを回してください。

1～3：保温するときに使います。

お好みにより温度調整ができます。

通常はこの段階でご使用ください。



201851

注意

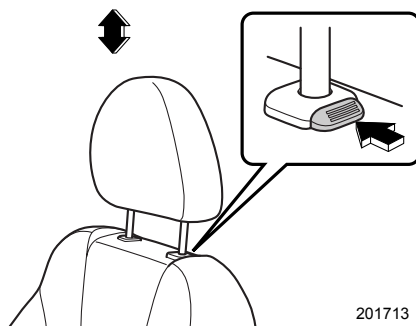
- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮膚の弱い方、体の不自由な方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどを乗せて使用しないでください。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、充分乾かしてから使用してください。

アドバイス

- エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬いものや突起のあるものを乗せないでください。

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。



201713

警告**運転するときには**

ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

ヘッドレストが屋根に当たって取り外しにくいときは、背当てを倒すと取り外せます。

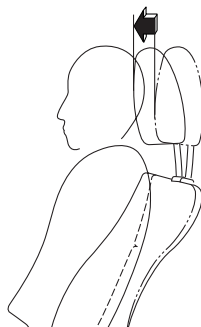
■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレスト（分離タイプ）には、アクティブヘッドレストが装備されています。

この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。

これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。

万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。



100089

⚠ 注意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。十分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

リヤシート

■ヘッドレスト

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

- 1) 格納位置
- 2) 使用位置

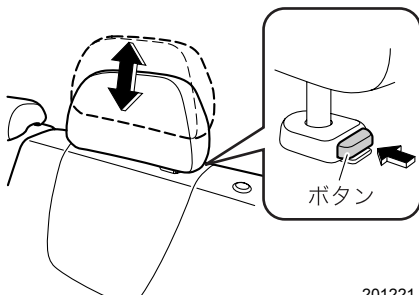


201504

●ヘッドレストの高さ調整

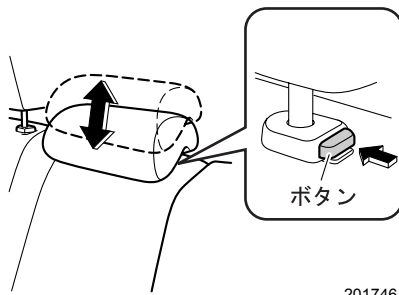
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

<左右席用>



201221

<中央席用>



201746

運転する前に

⚠ 警告

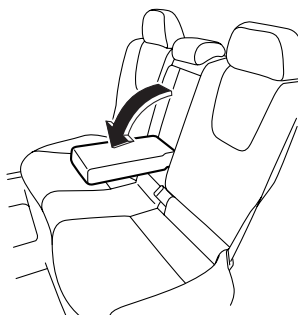
- ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
- 乗員が座っているときは、必ずヘッドレストを引き上げた状態で使用してください。

🏠 アドバイス

乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■アームレスト

引き出して、ひじ掛けとして使います。



201281

警告

アームレストを使用するときには

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

①最初にシートベルトを装着する。

②次にアームレストを下ろす。

先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

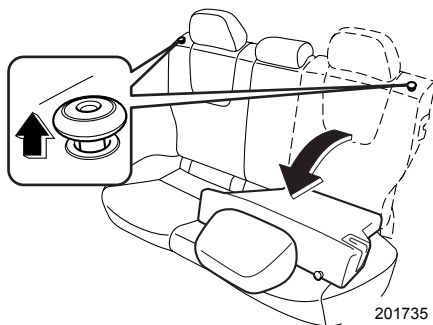
アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■6：4分割リヤシートの背当てを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

背当て上方にあるロックノブを引き上げながら背当てを倒します。




●背当てを元に戻すとき


背当てを起こし、確実にロックします。

 **警告**

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
 - 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。
- ☆2-64ページの注意事項もお守りください。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 背当てを元に戻したときは、シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

 **注意**

- チャイルドシートを取り付けているときは、背当てを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背当てを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください(5ドアのみ)。

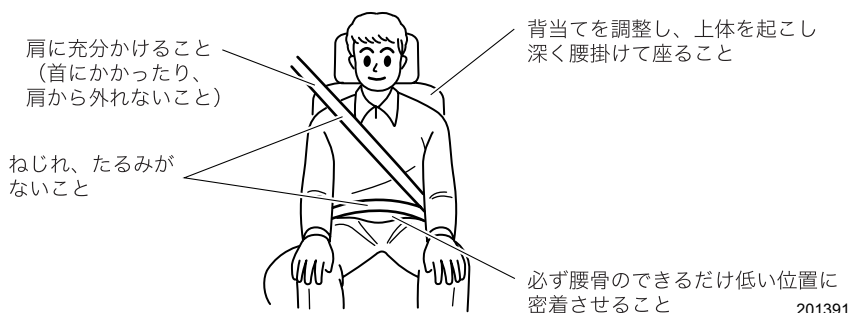
 **アドバイス**

上り坂などで背当てが倒れないときは、手で倒してください。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



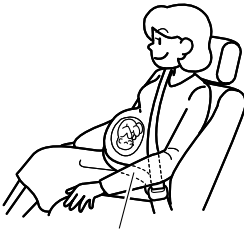
警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。重大な傷害につながるおそれがあります。

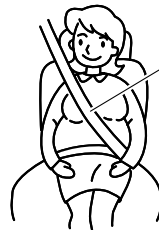
- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず十分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2-63ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。十分な効果を発揮しません。

警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置



胸部にかかるように

201344

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

<選択の目安>

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	13 kg未満	9～18 kg	15～36 kg
身長（目安）	85 cm未満	70～100 cm未満	95～150 cm未満
年齢（目安）	0か月～1歳半頃まで	9か月～4歳頃まで	3歳～12歳頃まで

警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにシートベルトを体に巻きつけて遊んだりすると、チャイルドシート固定機構が作動してベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。

万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてし

まい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

☆2-78ページ参照

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に動かず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。



200364

注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトが自動的にロックします(ELR機構)。

■3点式シートベルト

●着用のしかた

- ① タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



200119

- ② ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



201005

- ③ 正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



200121

●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。

ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

🏠 アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2-79ページ参照

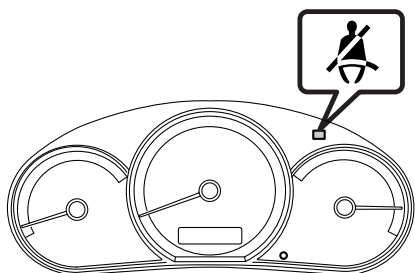
- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警報

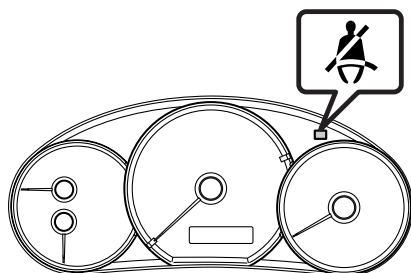
エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。運転席シートベルト未着用のまま車速約22 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

タイプAメーター、タイプBメーター

タイプCメーター、タイプDメーター、
タイプEメーター、タイプFメーター



201350



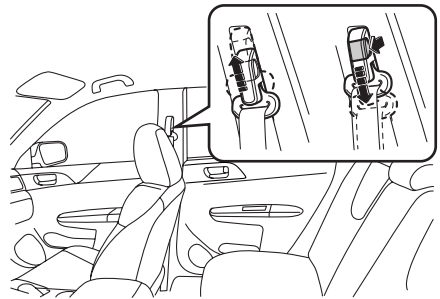
201351

🏠 アドバイス

このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

- ① 上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはノブを引きながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
- ② ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。



201736

警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。

☆2-78ページ参照

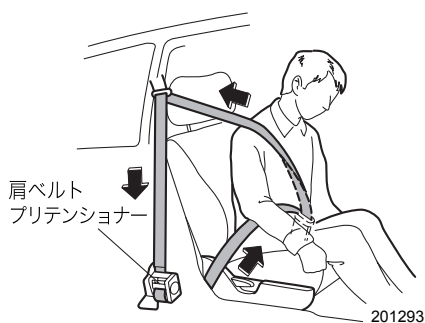
■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前乗員をシートにしっかり固定し、シートベルトの効果をいっそう高めます。

プリテンショナーは運転席側、助手席側それぞれの肩ベルトに装着されています。

運転席側

助手席側



⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2-63ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

🏠 アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していない場合でも作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトまたは2点式シートベルトが装備されています。

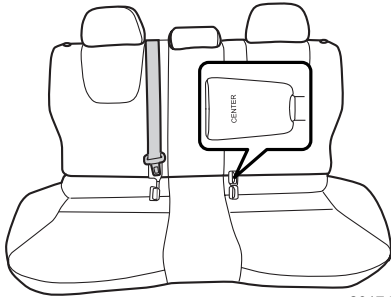
■3点式シートベルト

外側席用シートベルトおよび中央席用シートベルト（4ドア車）はフロントシートベルトと同じ方法で着用します。

☆2-77ページ参照

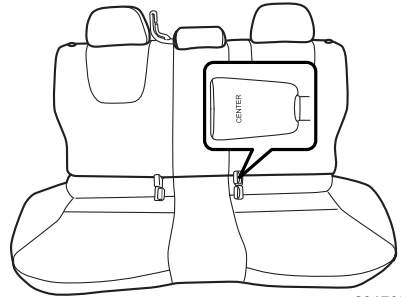
5ドア車の中央席は格納できる3点式シートベルトが装備されています。中央席用シートベルトは、必ず中央席用のバックルを使用してください。バックルには「CENTER」印があります。

4ドア車



201740

5ドア車



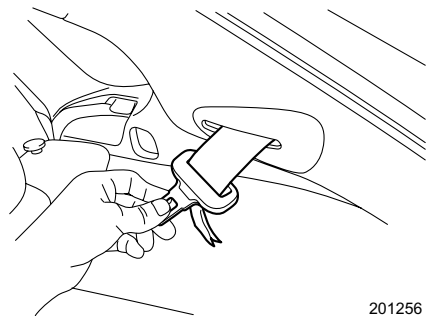
201705

運転する前に

●5ドア車のシートベルトの使い方

▼着用するとき

- ① カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出します。



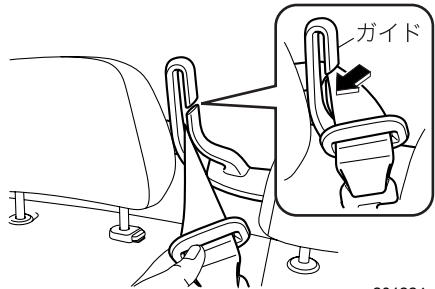
201256

次ページへ ⇒

シートベルト

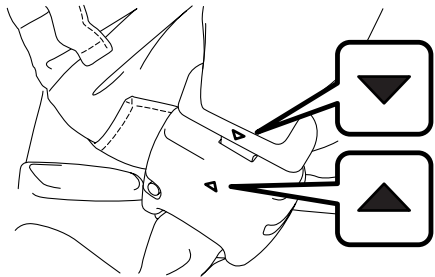
⇒前ページより

② シートベルトを背当てのガイドに通します。



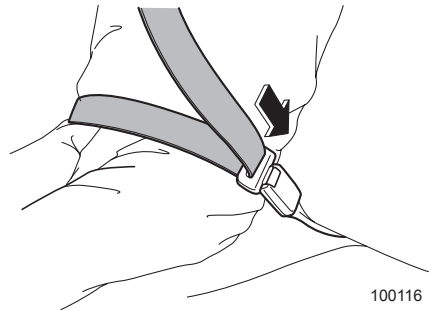
201224

③ 右側の小さいバックルとコネクターを▲マークが付いている面を合せて結合します。



200298

④ フロント 3 点式シートベルトと同じ要領で着用します。



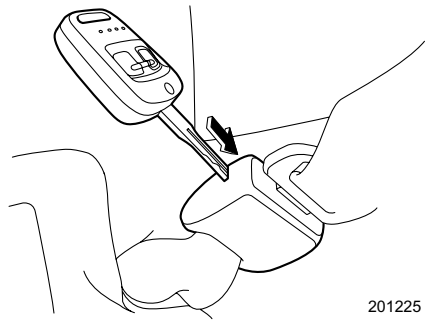
100116

⚠ 注意

コネクターを結合しないで使用するとシートベルト本来の機能が発揮されません。必ず結合してから着用してください。

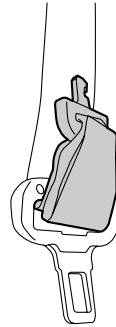
▼格納するとき

- ①バックルの「PRESS」ボタンを押します。
- ②コネクターの解除ボタンをキーなどを使って押し分離します。



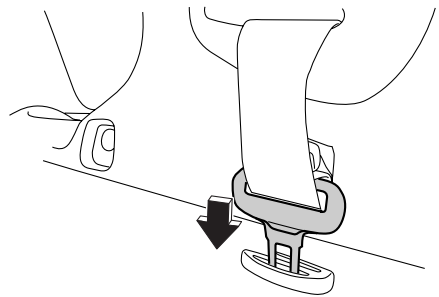
201225

- ③コネクターを後ろに巻きます。



201509

- ④シートベルトをカーゴルームにある格納ホルダーの溝に差し込み、タンクプレートを格納ホルダーに差し込み固定します。



201491

⚠ 注意

- 使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないように気をつけてください。

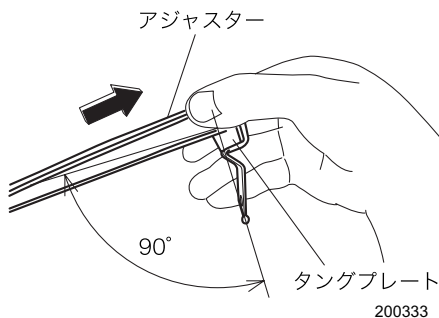
運転する前に

■2点式シートベルト

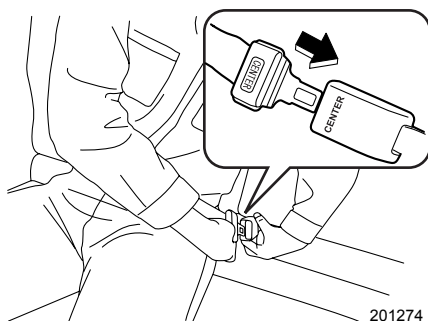
必ず中央席用のバックルを使ってください。中央席用のタングプレートとバックルには「CENTER」印があります。

●着用するとき

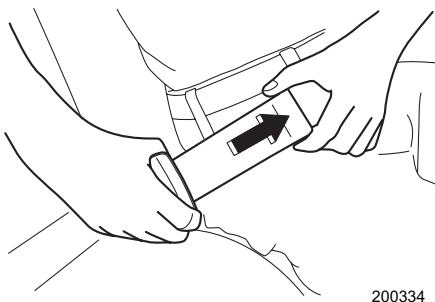
- ① カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出します。



- ② ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチッ”と音がするまで差し込みます。
このとき、タングプレートとバックルにある「CENTER」印の面を合わせてください。



- ③ 腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。



●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。

チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。

(ISO FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用(ベビー) / 幼児用(チャイルド)チャイルドシートを専用のISO FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2-86ページの「ISO FIX固定バー および テザーアンカー」をご覧ください。)

警告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。(詳しくは、チャイルドシート(別売)に付属の取扱説明書をご覧ください。)

■チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

- ①チャイルドシート(別売/スバル純正ISO FIX方式を除く)を取り付けます。
- ②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのヘッドレストを取り外します。
- ③シートベルトを引き出しチャイルドシートにシートベルトを通して、タンクをバックルに確実に差し込みます。
- ④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
(自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。)
- ⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。
- ⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

■チャイルドシート固定機構の解除のしかた

- ①バックルの「PRESS」ボタンを押して、ベルトを外します。
- ②ベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取る際にチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。このとき、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。

ISO FIX固定バー および テザーアンカー

後席の左右席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスパル純正ISO FIXチャイルドシートを固定するための専用のISO FIX固定バーが装備されております。

また、ISO FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として、前向きで使用する場合のみに使用するテザーアンカーが装備されております。

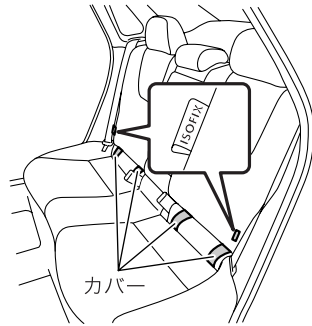
- ISO FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスパル純正ISO FIXチャイルドシートは、専用のISO FIX固定バーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。
- ISO FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として前向きで使用する場合には、テザーアンカーを使用してチャイルドシートの上側を確実に固定することができます。

警告

- 前向きに取り付ける場合には、必ずISO FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、以下の部分に異物やシートベルトの噛み込みがないことを確認してください。
 - － ISO FIX固定バー
 - － ベースシートのロック部
 - － テザーベルトのフックシートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 前向きに取り付ける場合は、テザーベルトは必ずリヤシート背当て後ろ側にあるテザーアンカーに固定してください。
 - ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
- （詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

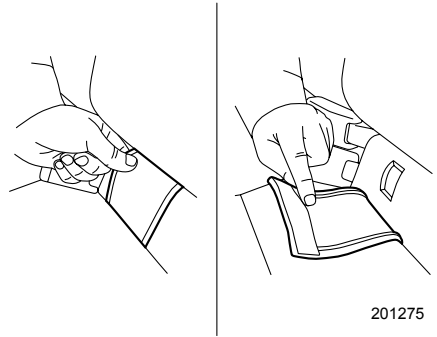
■ISO FIX固定バー

背当ての下側のカバーをめくるとあります。
ISO FIX 固定バーが装備されていることを示すタグが背当てについています。



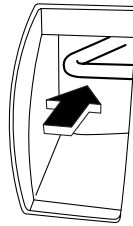
201227

チャイルドシートを取り付けるときは、カバーをめくります。



201275

ISO FIX固定バーに差し込みます。



201276

アドバイス

チャイルドシートを取り外した後は、ISO FIX 固定バーのカバーを元の状態に戻してください。

運転する前に

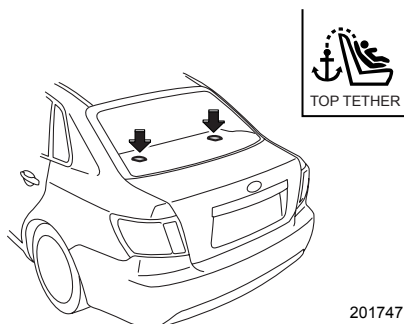
■テザーアンカー（前向き取り付け時のみに使用）

警告

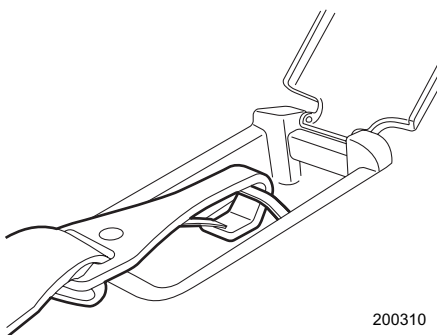
- 前向きに取り付ける場合には、必ずISO FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- スバル純正ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

●4ドア

リヤシートヘッドレストの後ろ側にあるカバーを開けるとあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。



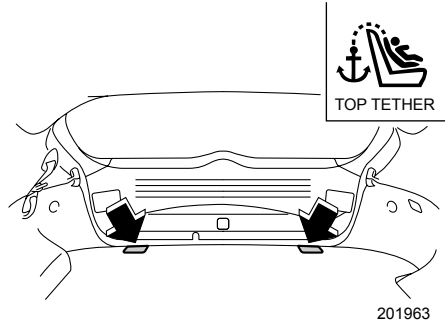
テザーベルトのフックをテザーアンカーに引っかけます。



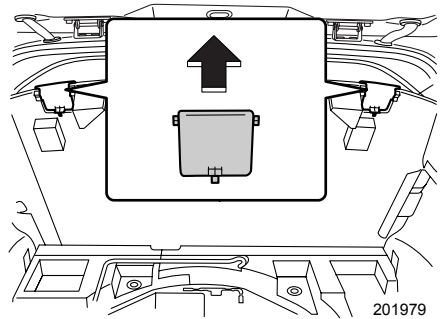
●5ドア (WRX STI spec C)

カーゴルームのリッド (床) 後ろ側左右に、カバーがついています。

カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。

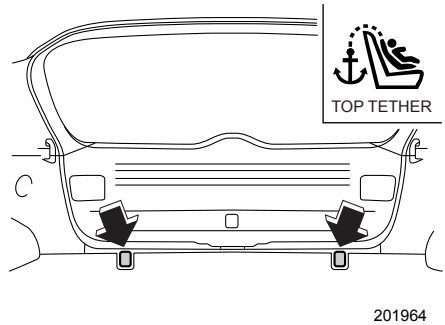


リッド (床) を持ち上げ、カバーをスライドさせて外します。



カーゴルーム後ろ側の左右にあるカバーを開けます。

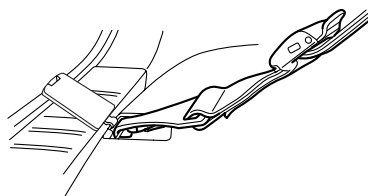
カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。



運転する前に

チャイルドシート固定装置

テザーベルトのフックをテザーアンカーに
引っかけます。



201965

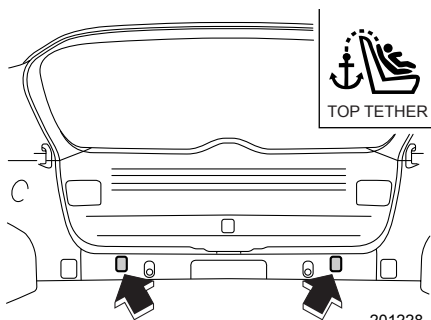


アドバイス

取り外したリッド（床）側のカバーは、紛失しないように保管してください。

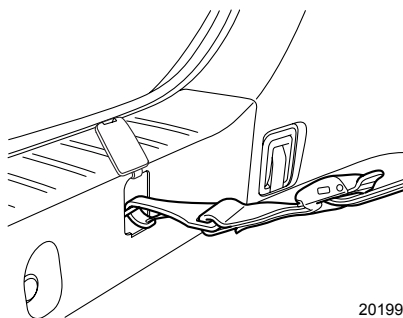
●5ドア（WRX STI spec C以外）

カーゴルーム後ろ側の左右にあるカバーを開
けるとあります。カバーにはテザーアンカー
を示すマークがあります。



201228

テザーベルトのフックをテザーアンカーに
引っかけます。



201993

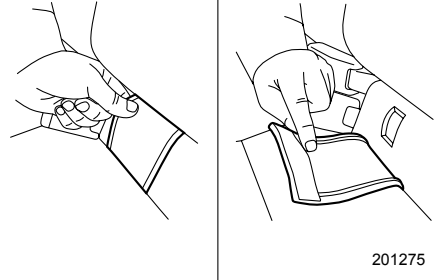
■ スバル純正ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向き（乳児用）として使用する場合

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

警告

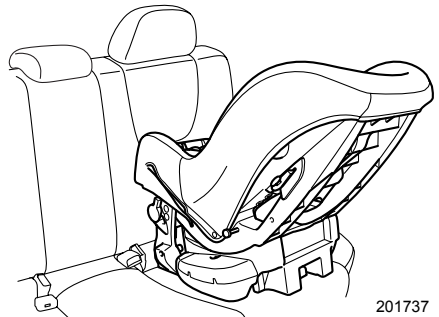
- ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

- ① 背当ての下部のカバーをめくり、ISO FIX固定バーの位置を確認します。



201275

- ② ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
③ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
④ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。



201737

注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

運転する前に

■スバル純正ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を前向き（幼児用）として使用する場合

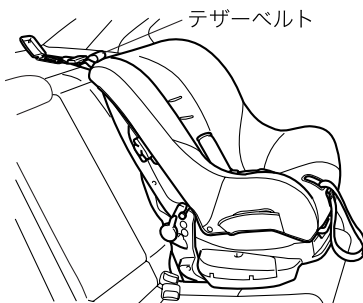
詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

- 前向きに取り付ける場合は、必ず ISO FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

●4ドア

- ① ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのヘッドレストを取り外します。
- ② 背当て下部のカバーをめくり、ISO FIX固定バーの位置を確認します。
- ③ ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
- ④ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
- ⑤ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
- ⑥ リヤシートヘッドレスト後側側のテザーアンカーカバーを取り外します。
- ⑦ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
- ⑧ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
- ⑨ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。



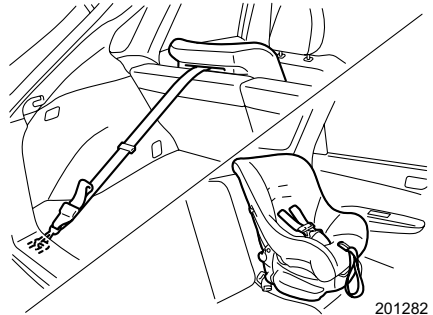
201738

注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

●5ドア

- ① ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートヘッドレストを取り外します。
- ② 背当て下部のカバーをめくり、ISO FIX固定バーの位置を確認します。
- ③ ベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
- ④ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
- ⑤ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
- ⑥ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
- ⑦ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
- ⑧ ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。



運転する前に

注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■ シートベルトは必ず正しく着用してください

警告

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
☆2-74ページ参照
- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
☆2-63ページ参照

■ 乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

警告

膝の上に物をかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■SRSエアバッグシステム周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください

警告

ハンドルのパッド部、インストルメントパネル、センターコンソール、フロントシート背当て側面、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、天井、アシストグリップなど、SRSエアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなど、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。
- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



200366

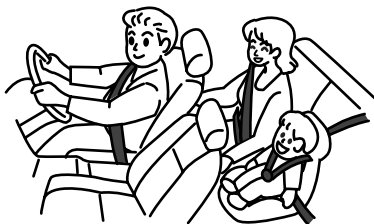


100234

次ページへ ⇒

⇒前ページより

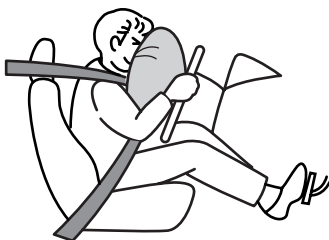
- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。



200127

■ 運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

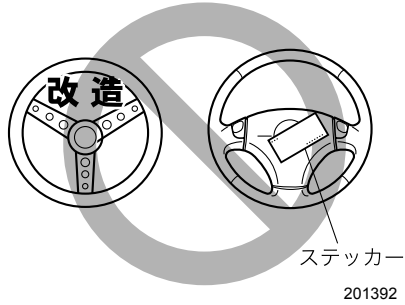


200123

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



運転する前に

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

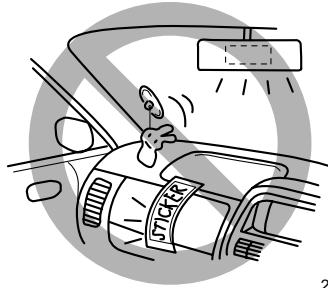


200124

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

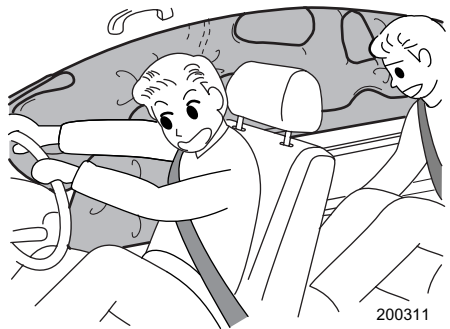
- インstrumentパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- Instrumentパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けしないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- Instrumentパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200367

■SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグと左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らんだ後にしぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



200311

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ装着車に関しては、次の事項をお守りください

警告

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てをかかえこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201352



201353

運転する前に

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。使用する場合には添付されている使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けしないでください。SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200370

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リアピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントウインドウ、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリ・ハンズフリーマイクなどを取り付けしないでください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えないでください。SRSカーテンエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

警告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしばみ始めます。(SRSカーテンエアバッグを除く)
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをす
るおそれがあります。

アドバイス

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしばんで視界を妨げません。(SRSカーテンエアバッグを除く)
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。スバル販売店で交換してください。

運転する前に

■ 運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

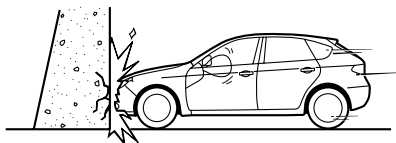
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●作動するとき

- 次のようなときに作動します。

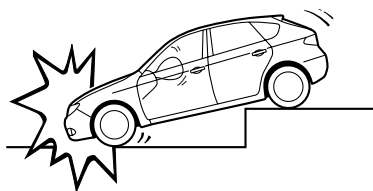
20～30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき



201710

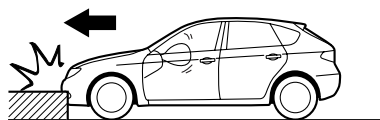
- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき



201231

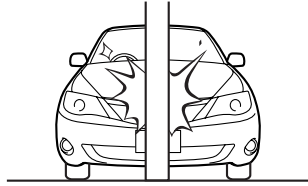
縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき



201232

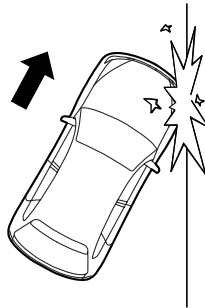
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき
電柱などに衝突したとき



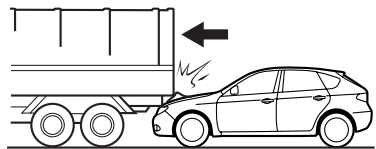
201233

斜め前方への衝突のとき



201235

トラックの荷台にもぐり込んだとき



201237

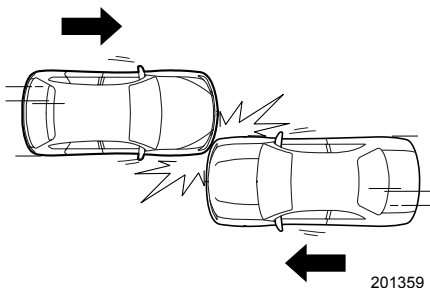
次ページへ ⇒

運転する前に

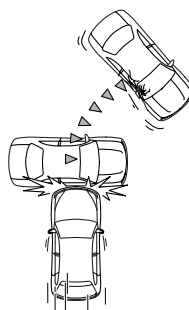
SRSエアバッグシステム

⇒前ページより

片側衝突（オフセット衝突）のとき



駐車している車両など、移動または変形するものに衝突したとき

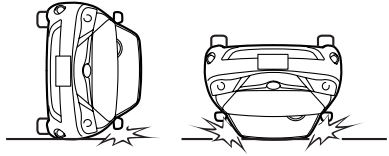


- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります。本来の効果は発揮されません。

後ろから衝突されたとき

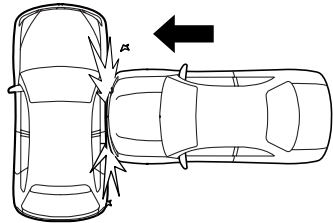


横転や転覆したとき



201234

横方向から衝突されたとき



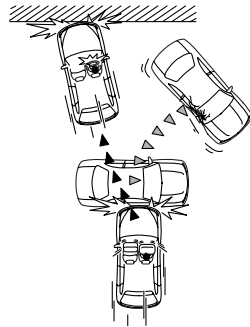
201236

運転する前に

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



201239

■SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

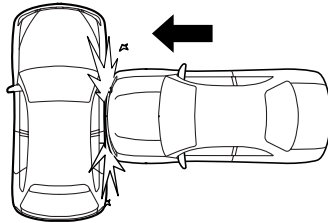
SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

側面に真横から衝突されたとき



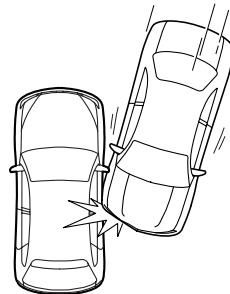
201236

●作動しにくいとき

- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。

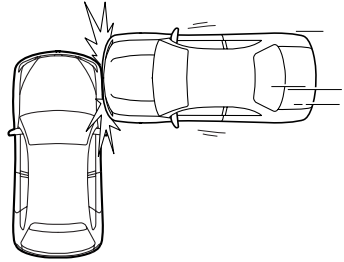
衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

車両側面に斜めから衝突されたとき



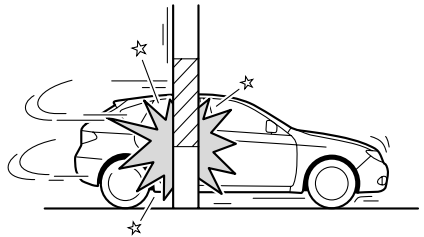
201240

客室以外に側面から衝突されたとき



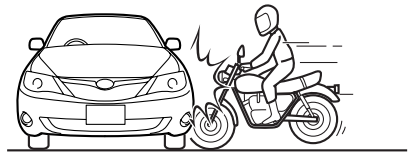
201241

電柱などに衝突したとき



201242

側面にバイクが真横から衝突したとき



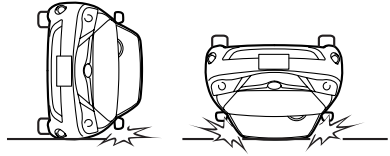
201243

運転する前に

SRSエアバッグシステム

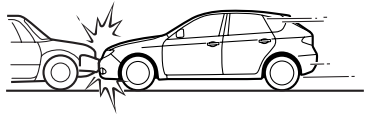
- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

横転や転覆したとき



201234

停車中や走行中の車に正面から衝突したとき



201244

後ろから衝突されたとき

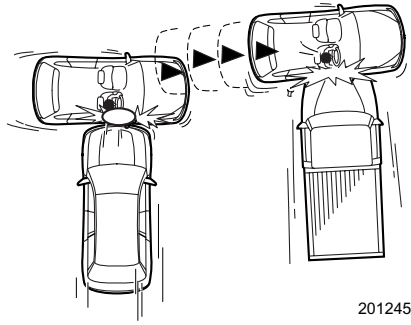


201238

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突



201245

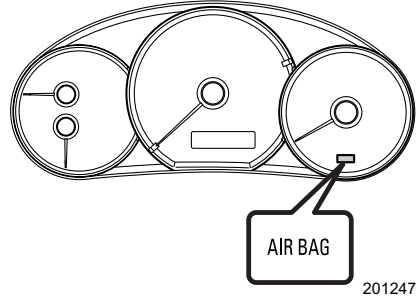
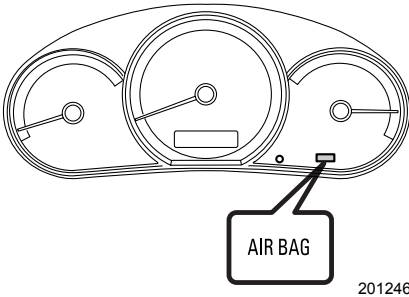
運転する前に

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイド、カーテンの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

タイプAメーター、タイプBメーター

タイプCメーター、タイプDメーター、
タイプEメーター、タイプFメーター



警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがを
するおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

警告

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。これらの作業が必要ときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- － サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- － 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- － ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- － 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- － SRSサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。シートに内蔵されているSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- － SRSカーテンエアバッグ装着車では、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しないでください。
- － SRSサイドエアバッグ&前後席SRSカーテンエアバッグ装着車では、センターピラー、リヤピラー、リヤシートなどのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- － SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- － 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- － 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

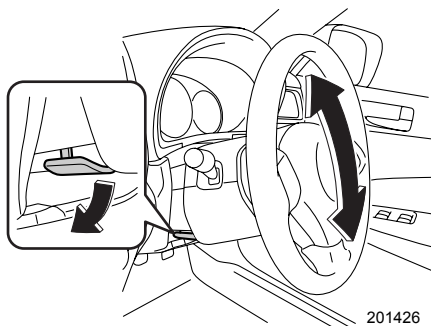
運転する前に

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

- ①チルトレバーを押し下げます。
- ②ハンドル位置を合わせます。
- ③チルトレバーを引き上げます。
- ④ハンドルが固定されたことを確かめてください。



警告

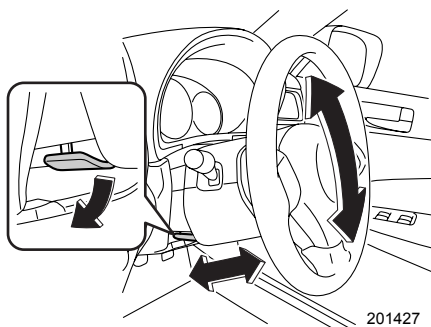
調整は必ず走行前に行ってください。

- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながる可能性があります。

チルト/テレスコピックステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を前後または上下に調整できます。

- ①チルト/テレスコピックレバーを押し下げます。
- ②ハンドル位置を合わせます。
- ③チルト/テレスコピックレバーを引き上げます。
- ④ハンドルが固定されたことを確かめてください。



警告

調整は必ず走行前に行ってください。

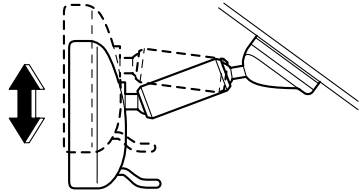
- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながる場合があります。

ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できる位置に調整します。

■ 上下位置の調整

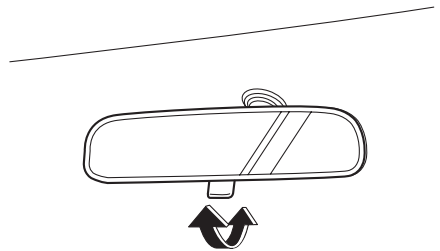
ルームミラーは、上下方向に調整することができます。



201284

■ 防眩ルームミラー

通常はレバーを前方の位置にして使います。夜間走行時、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを押します。ランプの反射を弱くすることができます。



201249

注意

調整は必ず走行前に行ってください。

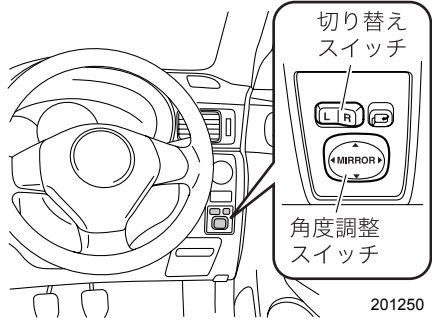
運転する前に

ドアミラー

■電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

- ① 調整するミラーを選びます。
左右切り替えスイッチを調整するミラー側に押して切り替えます。
「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー
- ② 「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして後方を充分確認できる位置に調整します。

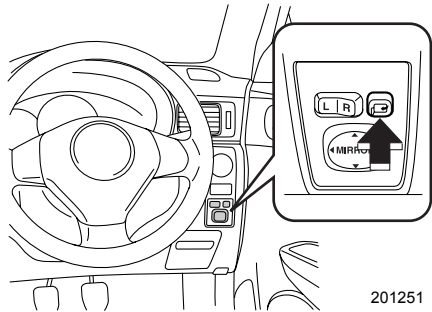


注意

調整は必ず走行前に行ってください。

■電動格納式ドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押しこむと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。



 **アドバイス**

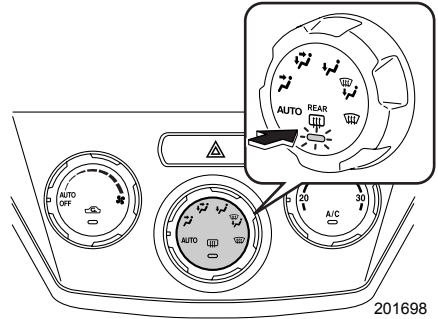
- 寒冷時は、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇄元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ ヒーテッドドアミラー 


エンジンスイッチがONのとき使用できます。ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使用します。リヤウインドウデフォグガーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。
- リヤウインドウデフォグガーを連続作動に設定している場合は、連動して作動します。

☆3-15ページ参照



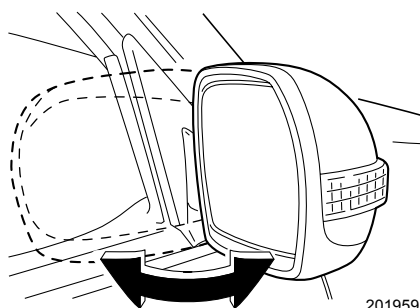
運転する前に

 **アドバイス**

消費電力が大きいため、連続しての使用や雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

■マニュアルドアミラー

可倒式ドアミラーが備えられています。走行する前に元に戻し（開いた状態）、視界を確認してください。



⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。